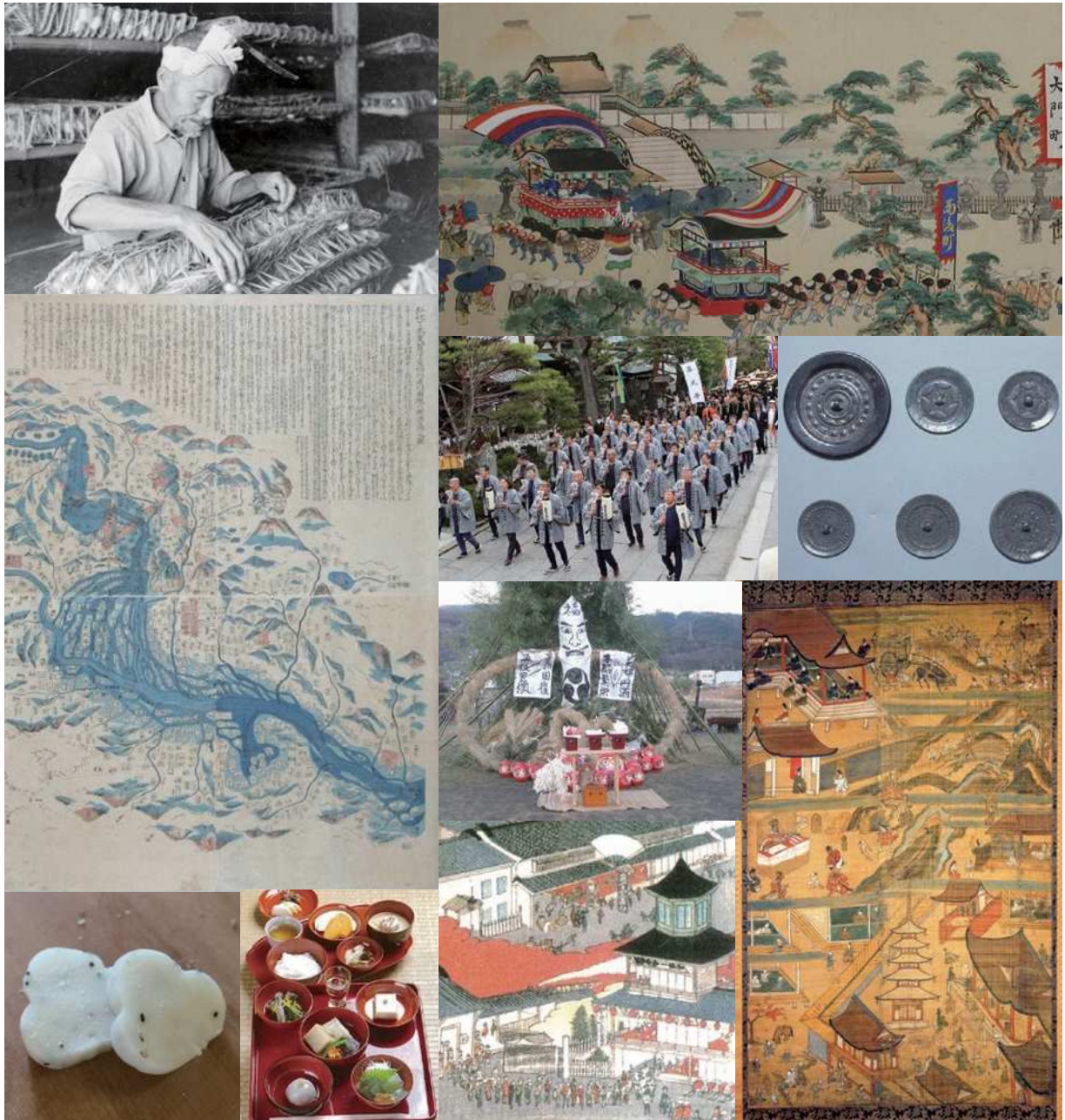


# 長野市文化財保存活用地域計画(案)



## 目 次 (案)

|     |                  |     |
|-----|------------------|-----|
| 序 章 | はじめに             |     |
| 1   | 計画作成の背景と目的       | 1   |
| 2   | 目指す将来像           | 2   |
| 3   | 計画の位置づけ(関連計画)    | 3   |
| 4   | 計画期間             | 4   |
| 5   | 計画作成の体制・経過       | 4   |
| 6   | 計画の対象及び用語の定義     | 6   |
| 第1章 | 長野市の概要           |     |
| 1   | 自然的・地理的環境        | 7   |
| 2   | 社会的状況            | 11  |
| 3   | 歴史的背景            | 17  |
| 第2章 | 長野市の文化財          |     |
| 1   | 文化財に関するこれまでの調査   | 29  |
| 2   | 地域計画の作成に伴う調査     | 31  |
| 3   | 長野市の文化財の概要       | 37  |
| 第3章 | 長野市の歴史文化の特性      |     |
| 1   | 歴史文化の特性の整理の経緯    | 60  |
| 2   | 長野市の歴史文化の特性      | 62  |
| 第4章 | 文化財の保存・活用の方針と措置  |     |
| 1   | 文化財調査における現状と課題   | 67  |
| 2   | 文化財の保存における現状と課題  | 71  |
| 3   | 文化財の活用における現状と課題  | 72  |
| 4   | 文化財の継承における現状と課題  | 73  |
| 5   | 目指すべき姿を実現するための方針 | 74  |
| 6   | 文化財の保存と活用に関わる措置  | 75  |
| 第5章 | 関連文化財群           |     |
| 1   | 関連文化財群の考え方       | 89  |
| 2   | 長野市の関連文化財群       | 89  |
| 第6章 | 文化財の防災・防犯対策      |     |
| 1   | これまでの主な災害        | 151 |
| 2   | 防災・防犯対策          | 154 |
| 第7章 | 文化財の保存活用に向けた推進体制 |     |
| 1   | 進捗管理と評価の方法       | 158 |
| 2   | 推進体制             | 158 |
| 附 章 | 指定等文化財の一覧        | 161 |
|     | 課題・方針・措置対照表      | 折込  |

## 序章 はじめに

### 1 計画作成の背景と目的

長野市は、山梨県・埼玉県・長野県にまたがる甲武信ヶ岳から発し日本海へと流れる日本一長い千曲川と、北アルプスの檜ヶ岳を源とする犀川が合流する長野盆地に位置する。この二大河川によって肥沃な土壌が運ばれる平地と、それを取り囲む山々からなる本市は、多様な自然環境に応じた暮らしの中で、多様な文化をはぐくんできた。

「遠くとも一度は参れ善光寺」と言われ、全国から参詣者を集める善光寺とその門前町や、古来より山岳信仰の地として修行者、参詣者を集め、近年ではパワースポットとして注目される戸隠山と戸隠神社、戦国大名上杉謙信と武田信玄が戦いを繰り広げた川中島古戦場、川中島の戦いで武田方の拠点として築かれた海津城（松代城）から始まり、江戸時代真田十万石の城下町として栄えた松代は、それぞれ地域の文化財を活かした魅力ある地域づくりにより、国内外から多くの観光客を迎え、その数は年間1千万人にもものぼる。

しかしながら、少子高齢化や社会構造の変化による地域コミュニティの弱体化、地震や水害、火災などの災害、新型コロナウイルスの感染拡大など、文化財を取り巻く状況は厳しいものとなっている。市指定の無形の民俗文化財の中には、地域コミュニティの弱体化によって祭りの維持が困難となり、指定解除となったものさえある。さらに、未指定の文化財については、その価値が認識されないまま失われることも懸念される。また、文化財の喪失は地域のアイデンティティや誇りの喪失にもつながっていく。令和元(2019)年東日本台風による千曲川沿いの水害は記憶に新しい。

このように、文化財を取り巻く状況は厳しいが、その中であって地域の文化財を掘り起こし、地域の魅力作りに繋げようと活動している団体も市内各所に存在している。本計画は、このような団体と連携しながら、地域の文化財を積極的に見出し、その魅力を多くの市民と共有し、文化財を活かした賑わいのある地域づくりにつなげることで、文化財が後代へ継承されるよう保存活用の取り組みを進めることを目的として作成するものである。

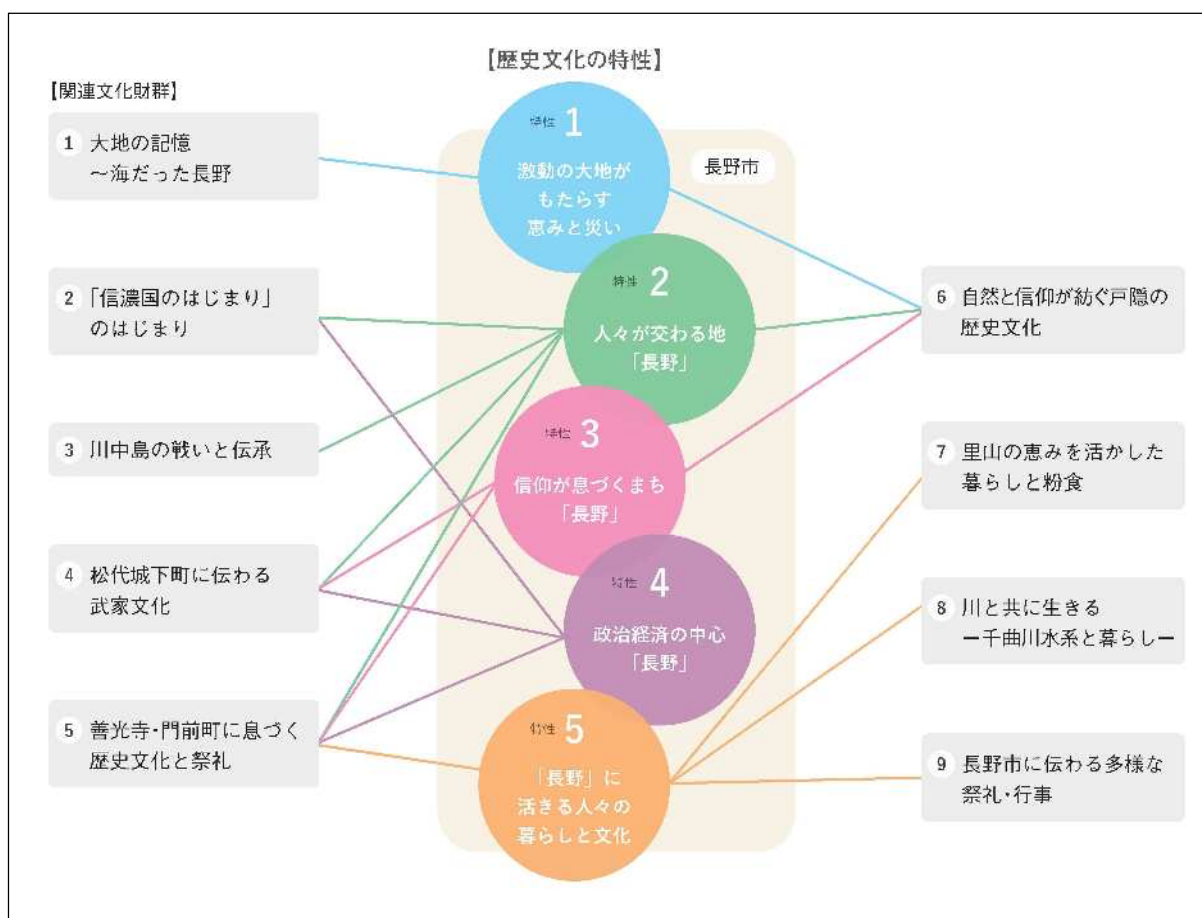
## 2 目指す将来像

### 「長野らしさ」を伝える文化財を活かした歴史文化都市

本市は、大地のダイナミックな活動により形成された長野盆地とそれを取り囲む多数の山岳の上に成り立ち、2,000m以上もある標高差の中で生み出される多様な自然環境の中に置かれている。また社会的には、善光寺の門前町をはじめ、松代、戸隠といった成り立ちや歴史、性格の異なる地域がつながりながら発展してきた。歴史的背景や性格が異なる地域性や、起伏にとんだ地形に合わせて営まれてきた生活の積み重ねは、多様な文化を生み出し、それが「長野らしさ」を形成している。

文化財は本市の多様な歴史と文化を表し、それを後世へ伝えるための大切なモノやコトである。本計画は市内に残るこのような文化財の価値と魅力を一人でも多くの市民と共有し、大切に使いながら将来に継承していく取組を行うことで、市民にも来訪者にも魅力のある「長野らしさ」を伝える文化財を活かした歴史文化都市を目指すものである。

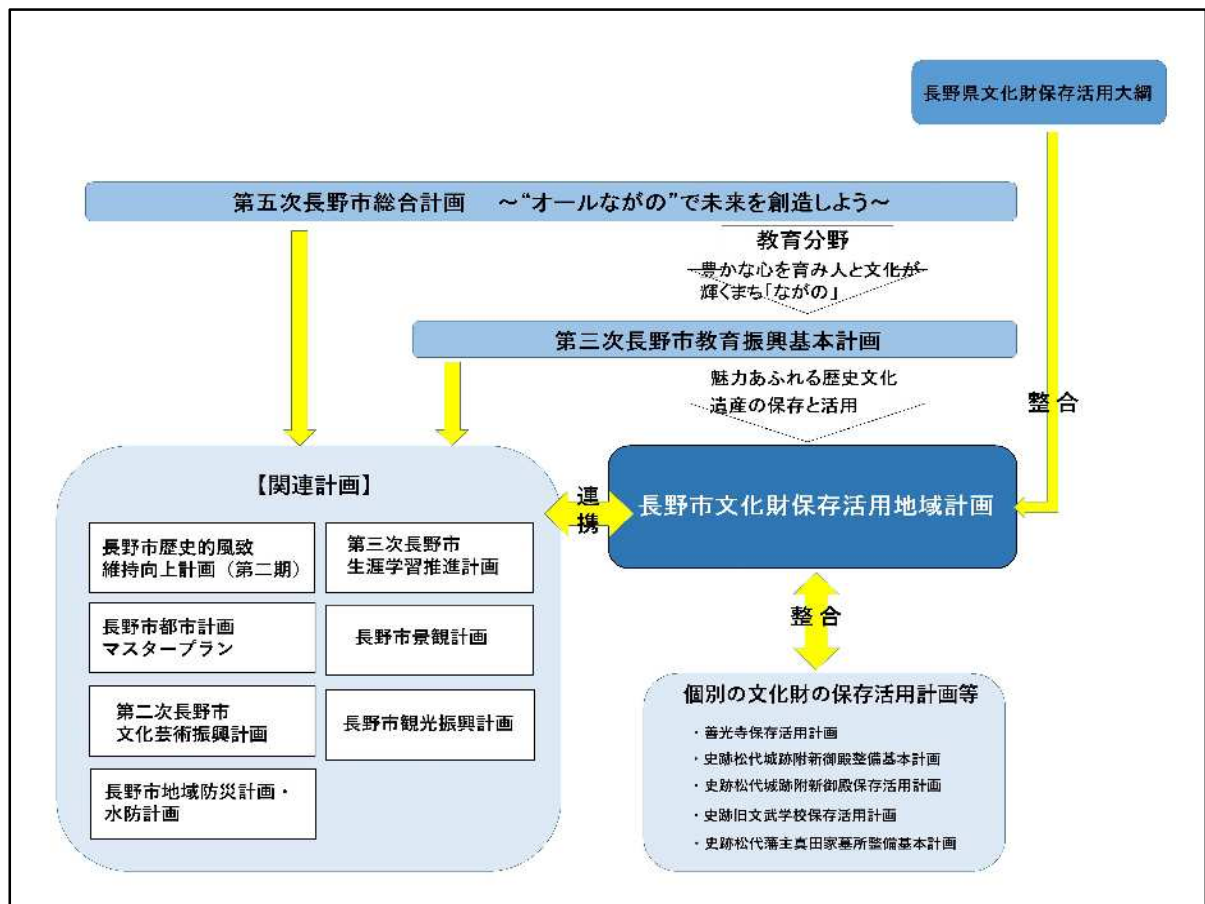
本計画で提示する「長野らしさ」のイメージ図(詳細は第3章、第5章に記載)



### 3 計画の位置づけ（関連計画）

本計画は、文化財保護法第 183 条の 3 に基づき「市町村の区域における文化財の保存及び活用に関する総合的な計画」として作成したものである。また、本市の上位計画である「第五次長野市総合計画」の教育分野の政策「魅力あふれる文化の創造と継承」および、「第五次長野市総合計画」の教育分野の計画である「第三次長野市教育振興基本計画」の基本施策「魅力あふれる歴史文化遺産の保存と活用」の中に位置づけ、文化芸術、生涯学習、まちづくり、景観、観光など、本市の諸計画と連携を図るものである。

また、「長野市歴史的風致維持向上計画」とは、文化財保護法第 183 条の 3 第 4 項に基づき調和を保つものである。



## 4 計画期間

本計画の計画期間は、令和6(2024)年度から令和13(2031)年度までの8年間とする。

計画期間は、本市の最上位計画となる「第五次長野市総合計画」(平成29年度～令和8年度)の改定時期を見通し、次期総合計画との整合を図るため、令和6(2024)年度から令和13(2031)年度までの8年計画とし、次期総合計画策定の際には、総合計画の内容に応じて適宜見直しを図っていく。

なお、見直しにあたって以下に掲げる変更については、文化庁長官の変更の認定を受ける。

- ・ 計画期間の変更
- ・ 市町村の区域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更
- ・ 地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更

上記以外の軽微な変更については、変更内容について長野県及び文化庁へ情報提供する。

## 5 計画作成の体制・経過

本計画の作成にあたっては、長野市文化財保存活用地域計画協議会で調査、審議を行い、長野市地方文化財保護審議会から意見を聴取した。また、パブリックコメント等による市民からの意見を踏まえた。

図 計画作成の体制

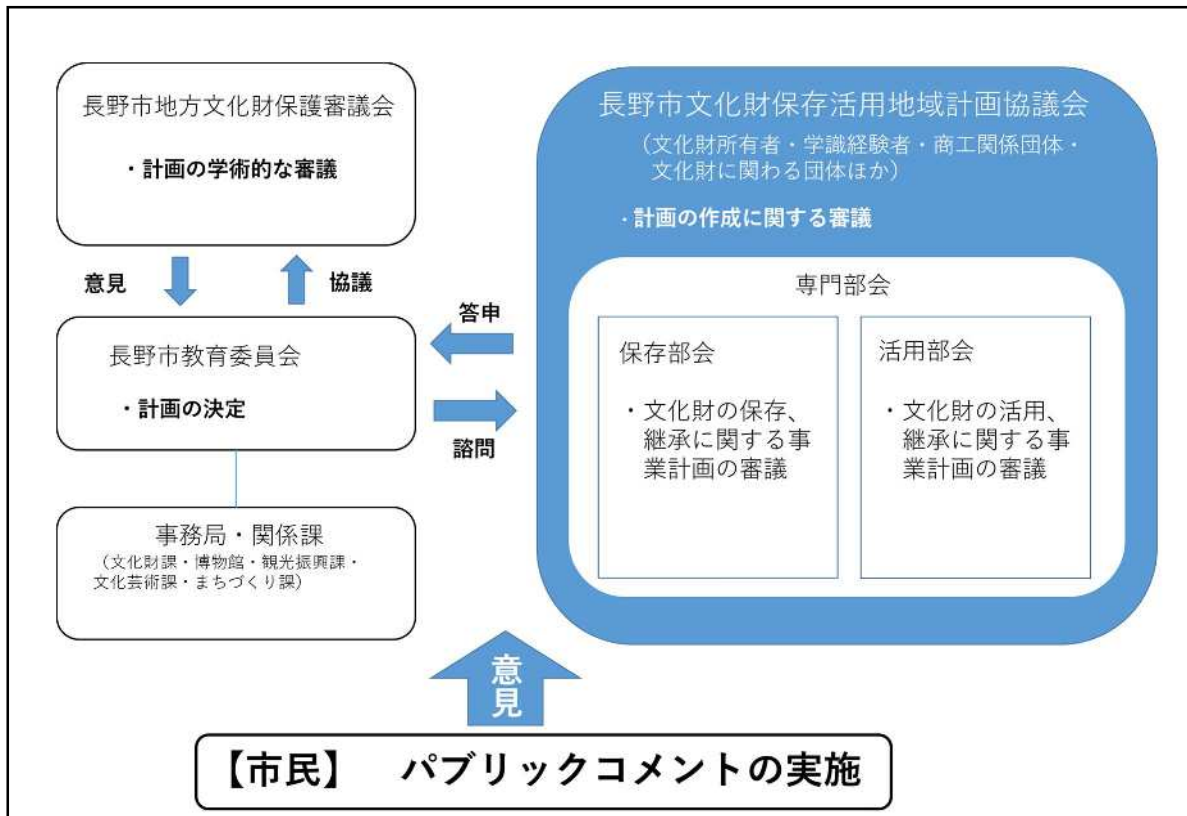


表 長野市文化財保存活用地域計画策定の経過

| 長野市文化財保存活用地域計画策定の経過と予定 |                                   |   |
|------------------------|-----------------------------------|---|
| 開催日                    | 会議名称                              | 概要  |
| 令和4年2月2日               | 第1回<br>文化財保存活用地域計画協議会             | ★諮問<br>・計画の目的、計画の位置づけについて<br>・計画作成の体制、スケジュールについて<br>➡意見聴取、審議                  |
| 令和4年3月                 | 令和3年度第2回<br>地方文化財保護審議会            | ・計画の全体概要について<br>➡新型コロナウイルス感染防止のため、書面による意見聴取                                   |
| 令和4年6月9日               | 第1回保存部会(長野市文化財保存活用地域計画協議会部会)      | ・歴史文化の特徴・関連文化財群について<br>・保存・活用に向けた課題、方針と現状の行政側の取り組みについて<br>➡概要説明、意見聴取          |
| 令和4年6月14日              | 第1回活用部会(長野市文化財保存活用地域計画協議会部会)      |   |
| 令和4年7月26日              | 第2回保存・活用合同部会(長野市文化財保存活用地域計画協議会部会) | ・歴史文化の特徴・関連文化財群について<br>➡ワークショップ形式で意見聴取  |
| 令和4年8月19日              | 令和4年度第1回<br>地方文化財保護審議会            | ・歴史文化の特徴・関連文化財群について<br>➡意見聴取、審議   |
| 令和4年8月31日              | 第2回<br>文化財保存活用地域計画協議会             | ・歴史文化の特徴について<br>・保存・活用の課題整理とそれに対応した4つの基本方針について<br>➡意見聴取、審議                    |
| 令和4年11月1日              | 第3回保存部会(長野市文化財保存活用地域計画協議会部会)      | ・保存・活用に関わる措置、取り組みについて<br>➡ワークショップ形式で意見聴取)                                     |
| 令和4年11月7日              | 第3回活用部会(長野市文化財保存活用地域計画協議会部会)      |   |
| 令和5年2月2日               | 第3回<br>文化財保存活用地域計画協議会             | ・保存・活用に関わる措置、取り組みについて<br>・関連文化財群について<br>・計画素案について(序章・第1章・第2章・第3章)<br>➡意見聴取、審議 |
| 令和5年2月7日               | 令和4年度第2回<br>地方文化財保護審議会            | ・保存・活用に関わる措置、取り組みについて<br>・関連文化財群について<br>・計画素案について(序章・第1章・第2章・第3章)<br>➡意見聴取、審議 |
| 令和5年6月5日               | 第4回<br>文化財保存活用地域計画協議会             | ・進捗管理と評価の方法、推進体制について<br>・計画素案について(第4章・第5章・第6章)<br>➡意見聴取、審議                    |
| 令和5年9月19日              | 令和5年度第1回<br>地方文化財保護審議会            | ・進捗管理と評価の方法、推進体制について<br>・計画素案について(第4章・第5章・第6章)<br>➡意見聴取、審議                    |

|             |                        |   |
|-------------|------------------------|---|
| 令和5年10月2日   | 第5回<br>文化財保存活用地域計画協議会  | ・計画素案の決定<br>→中間答申                                 |
| 令和5年10月～11月 | 文化財活用イベント&シンポジウム開催     |   |
| 令和5年12月     | パブリックコメント実施            |   |
| 令和6年2月      | 令和5年度第2回<br>地方文化財保護審議会 | ・パブリックコメントを反映した計画案について<br>→意見聴取、審議                |
| 令和6年2月      | 第6回<br>文化財保存活用地域計画協議会  | ・パブリックコメントを反映した計画案について<br>→意見聴取、審議<br>★ 計画案の決定、答申 |

## 6 計画の対象及び用語の定義

本計画では、指定・未指定に関わらず、市内に所在する次世代に継承すべき全ての文化財を対象とする。本計画で用いる用語のうち、「文化財」と「文化財の周辺環境」については、以下のように定義した上で使用する。

### 文化財

本計画でいう「文化財」とは、文化財保護法第2条に規定されるもので、有形文化財（建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料）・無形文化財（演劇、音楽、工芸技術等）・民俗文化財（衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、家屋、その他の物件）・記念物（貝塚・古墳、都城跡、城跡、旧宅、庭園、<sup>きょうりょう</sup>橋梁、溪谷、海浜、山岳その他の名勝地並びに動物、植物、地質鉱物）・文化的景観・伝統的建造物群を指す。また、文化財保護法で保護の対象とされている埋蔵文化財・保存技術も「文化財」に含めている。

「文化財」の中には、国、県、市が指定、選択、選定、登録することにより行政による保護措置が講じられている指定等文化財と、地域の特徴をあらわしているものであっても行政による保護措置が講じられてこなかった未指定文化財があるが、本計画での「文化財」は、指定・未指定全てを包括したものである。

### 文化財の周辺環境

本計画でいう「文化財の周辺環境」とは、対象の文化財が置かれている自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動に加え、文化財を維持・継承するための技術、文化財に関する歴史資料や伝承等、対象となる文化財を取り巻き、相互に影響を与える事柄を指す。



## ・第1章 長野市の概要

### 1 自然的・地理的環境

#### (1)位置

長野市は、日本のほぼ中央にある長野県の北部に位置する。東西 36.5km、南北 41.7km、面積は 834.85 km<sup>2</sup>。標高の最高地点は、新潟県境に位置する高妻山の 2352.8m、最低地点は市の北東部に位置する千曲川下流端の 327.4m で、標高差は 2025.4m である。

#### (2)地勢

長野市は、中央の長野盆地とその東西にある山地からなる。北西部は標高 2,000m を超える急峻な戸隠連峰、標高 1,200m 以下の地すべりの多い比較的なだらかな山地があり、その山地を刻む裾花川や土尻川が東へ流れ、犀川に合流する。犀川は、市の西側からほぼ東に向かって山地の中を蛇行しながら流れ、盆地内に流入後は大規模な扇状地を形成し、やがて千曲川に合流する。千曲川は市内を南西から北東方向に流れる。三つの川が集合する盆地は善光寺平と呼ばれ、河川が運んだ土砂が平地をつくる。

#### (3)地質

長野市は、地形的に中央の長野盆地とその東西にある西部山地と東部山地に大別される。

この一帯は北部フォッサマグナ地域に含まれ、その海だった場所に堆積した新第三紀層が山地を構成している。西部山地の北には第四紀火山である飯縄山が位置し、その山体や山麓は火山噴出物で構成される。長野盆地の周辺にある皆神山や髻山なども第四紀に噴火した小規模火山である。中央部にある長野盆地は、第四紀の中ごろから長野盆地西縁断層の活動が活発化して落ち込んだ部分で、そこに千曲川や犀川・裾花川等が運んだ河川性ないしは湖沼性の堆積物が、深いところでは 1,000m 以上も堆積している。

東部山地は、西部山地より古い約 2,000 万年前から 1,000 万年前の地層から構成されている。海底火山の噴出物や深い海に堆積した泥岩層などからなる。約 1,000 万年前に、地下からマグマが入り込み、硬い岩石(石英閃緑岩類)ができた。それらは、現在の温泉の熱源ともなっている。東部山地の硬い地層や岩石は、大室古墳群の石室や

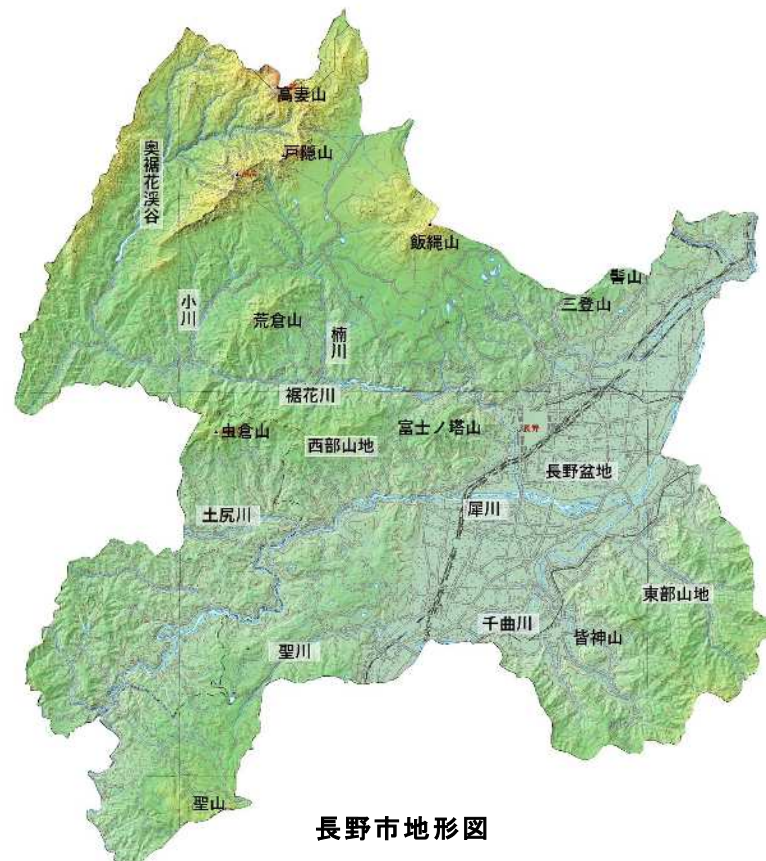


長野市の位置図

まつしろじょうの石垣に使われ、まつしろだいほんえい  
あずまやさんから志賀高原にかけての第四紀火山が噴出した。

西部山地は、約 1,000 万年前から 200 万年前にかけて海底に堆積した泥・砂・礫などの地層や海底火山の噴出物である溶岩や凝灰角礫岩類が分布する。西部山地は、現在も隆起を続ける地域で、硬い地層である溶岩や凝灰角礫岩類でできた戸隠連峰や虫倉山系、富士ノ塔山から三登山にかけては、険しい山地をつくる。これらの海成層からは、日本の石油産業の発祥の地ともなった浅川産の石油や、海生の貝類をはじめ各種の化石を産出する。また、雪の多い戸隠連峰から流下する裾花川は水量も多く、この地域が隆起を続けていることもあって浸食が進み、地層が連続して露出している。地層の積み重なりや化石の産出状況、各種の堆積構造、風化・浸食でできた地形を学ぶことができる。

長野盆地の西縁部には活断層帯があり、西部山地の隆起と長野盆地の沈降をもたらしている。この活断層は善光寺地震の震源ともなった。長野盆地西縁部の丘陵には、断層の動きで長野盆地が湖となったことを示す豊野層も分布する。断層の動きによって隆起した台地に河川が流入し、浸食作用により形成された段丘崖は、その後犀川や裾花川が運ぶ土砂によって高低差が埋まり、扇状地となった。この扇状地の扇中央部に善光寺が立地し、その南側には門前町が栄え、中心市街地に発展した。長野盆地の沈降は今も続いており、河川が流れ込み氾濫原を形成している。この河川の運んだ土砂の自然堤防の部分が「島」と呼ばれる微高地になっており、集落が形成された。

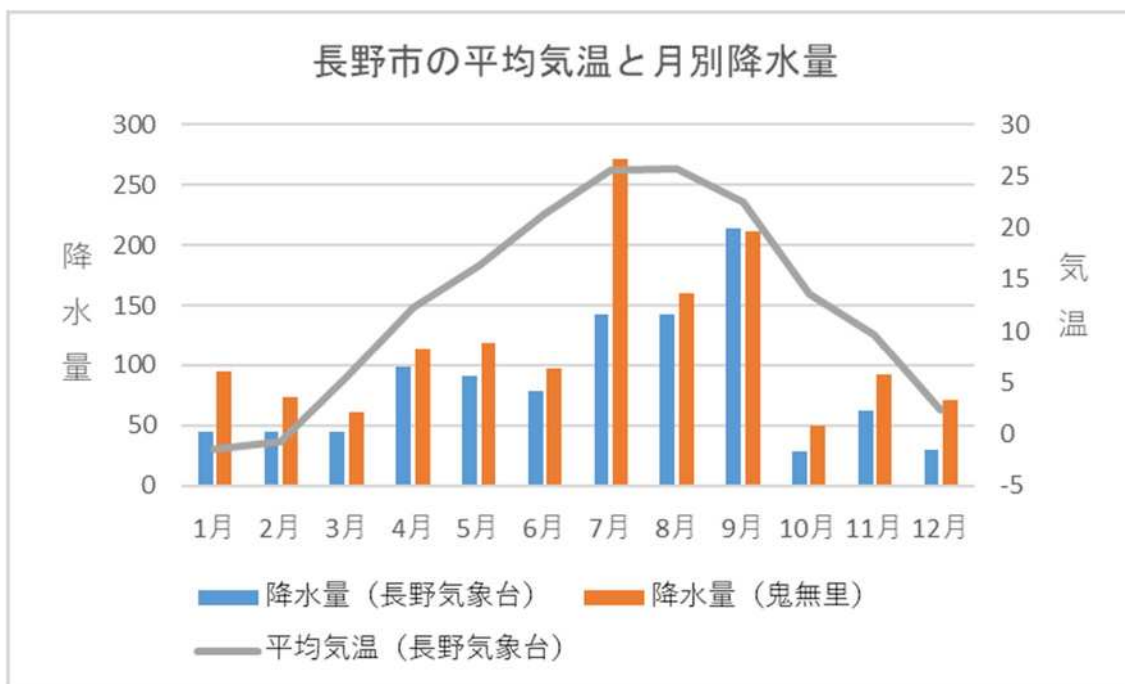


長野市地形図

#### (4) 気候

本市は周囲を山地に囲まれる盆地地形であると同時に西部山地を構成する戸隠連峰や飯縄山などが日本海からの北西の季節風を遮るため、内陸性気候の特徴が顕著にみられる。気温は年間の寒暖差が大きく、夏期の最高気温は8月で31℃まで上がり、冬期の最低気温は1月で-4℃以下まで下がる。日較差も年間を通して大きく、特に4月是一日の寒暖の差が12℃を超える。雨は夏季に多いものの、年間を通して降水量が少ないのが特徴で、2022年を例にとると長野地方気象台での年間降水量は1,023mmで、日本の平均降水量(1,661mm：1991年から2020年の平年値)をかなり下回る。

一方で市の北西部、戸隠・鬼無里地区の新潟県境付近では降雪が多く、日本海側気候を示す。高妻山をはじめとする高山が連なり、夏季の6月から9月も降水量が多く、鬼無里地区では年間降水量は1,415mm(2022年)に達する。



#### (5) 自然地理

長野市は、市域が広大であるために、地域ごとに異なる自然がみられ、全体として高い多様性をもつ自然となっている。地形的には「山地」、「中山間地・扇状地」、「平地・河原(盆地平坦部)」に分けられる。市内の自然の特徴は以下のようなになる。

**山地:**飯縄山をはじめとし、西岳から戸隠山、高妻山、乙妻山<sup>おとつまやま</sup>に至る戸隠連峰、さらに堂津岳<sup>どうつだけ</sup>から中西山<sup>なかにしやま</sup>に至るまでの北安曇郡<sup>きたあづみぐん</sup>との境となる山々とそれらに囲まれた裾花川源流域。これらの山々には、飯縄山や高妻山への登山者のほかに、ほとんど人が入らない。市内でもっとも標高が高く、降雪も多い地域で急峻な地形をなす。多雪地域に適応したトガクシソウなど「トガクシ」が種名につく植物がみられ、多くの新種が確認されてきた。

しかし、急峻な地形のため十分な調査が行われてきたとは言えず、今後も新たな発見の可能性がある。広大な自然が残る地域で、貴重な自然遺産と考えられ、妙高戸隠連山国立公園にも指定されている。

**中山間地から扇状地：**市域において最も広い面積を占め、長い年月にわたって人手が加わって成立してきた地域となっている。人間の活動が、適度な攪乱かくらんとなって多様性の高い自然を形成してきた。コナラやカスミザクラなどを主とした落葉広葉樹林やアカマツ林など人手の加わった二次林が分布し、そこに水田や畑地、草地、集落などがモザイク状に入り組んでいる。さらに、地質・地形的な特徴や河川が分布境界となって、市内の各地域で動植物の違いがみられる。里山地域は、地すべり地で生じる湧水や緩斜面を利用し、棚田がつくられてきた。また、降水量が少ないこともあって各地でため池が築造されてきた。

**平地・河原(盆地平坦部)：**千曲川は、長野盆地に入ると河川勾配が緩やかとなり蛇行する。瀬・淵・ワンド・たまりなど多様な環境があり、そこに特有な動植物が生息する。犀川は西部山地から長野盆地に入ると大きな扇状地を形成し、砂礫がつくる河原となっている。安茂里地区におけるコムラサキの集団ねぐらやコアジサシなどの礫河原に営巣する鳥類にとって、重要な生息地域となっている。また、水辺環境として、かつての千曲川が蛇行していた跡(河跡湖)の松代地区の金井池かないけ、冬季にカモ類などが渡ってくる吉田地区の辰巳池たつみけなどのため池、さらに長野市街地を東流する、ホタルの生息する八幡川はちまんがわなどの水辺環境があり、いずれも市街地のオアシスとして貴重な存在になっている。

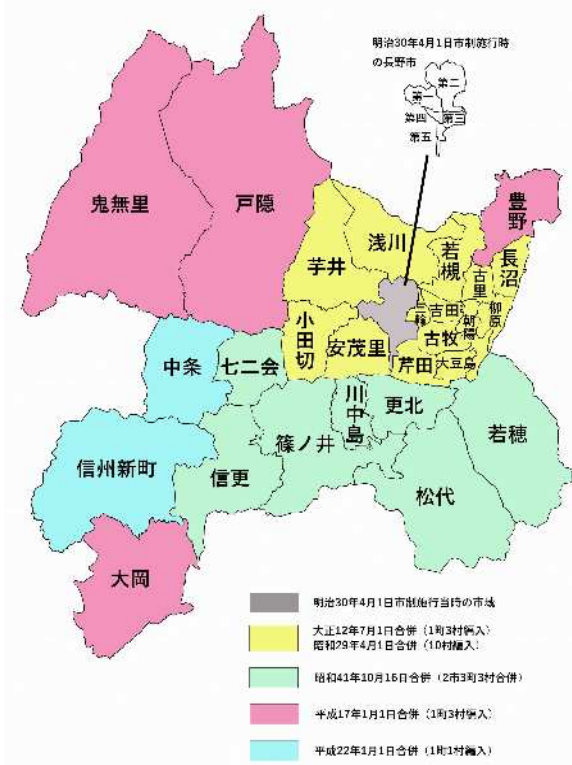
## 2 社会的状況

### (1) 町村合併の歴史

明治7(1874)年、善光寺と門前町の範囲に限られていた長野村は市街化に伴い、長野町と改称する。翌年北隣の箱清水村と合併しその範囲を広げた。明治22(1889)年に町村制が施行されると、長野町は近隣の南長野町、西長野町、鶴賀町、茂菅村と合併し、新しい長野町となった。この時に合併した5町村の範囲がほぼ現在の第一地区から第五地区にあたる。(第一地区は西長野町・茂菅村・長野町の一部、第二地区は長野町・箱清水村・三輪村の一部、第三地区は長野町の一部・鶴賀町・三輪村の一部、第四地区は南長野町、第五地区は南長野町の一部と芹田村の一部に相当する。)その後、明治30(1897)年には市制を施行し長野市が成立した。

長野市はその後、大正12(1923)年に近隣の三輪村、芹田村、吉田町、古牧村の1町3村を合併編入、昭和29(1954)年には古里村、長沼村、柳原村、朝陽村、大豆島村、安茂里村、小田切村、芋井村、浅川村、若槻村の周辺10村を編入合併し市域を大きく広げた。さらに昭和41(1966)年に長野市と篠ノ井市、松代町、川中島町、若穂町、更北村、信更村、七二会村の2市3町3村が合併し、新長野市が誕生した。

平成に入り国が打ち出した「平成の市町村合併」により、平成17(2005)年に豊野町、戸隠村、鬼無里村、大岡村の1町3村が、平成22(2010)年に信州新町と中条村が長野市に編入合併し、現在の長野市となった。市域の行政区は合併の際の市町村が単位となっており、現在32地区となっている。



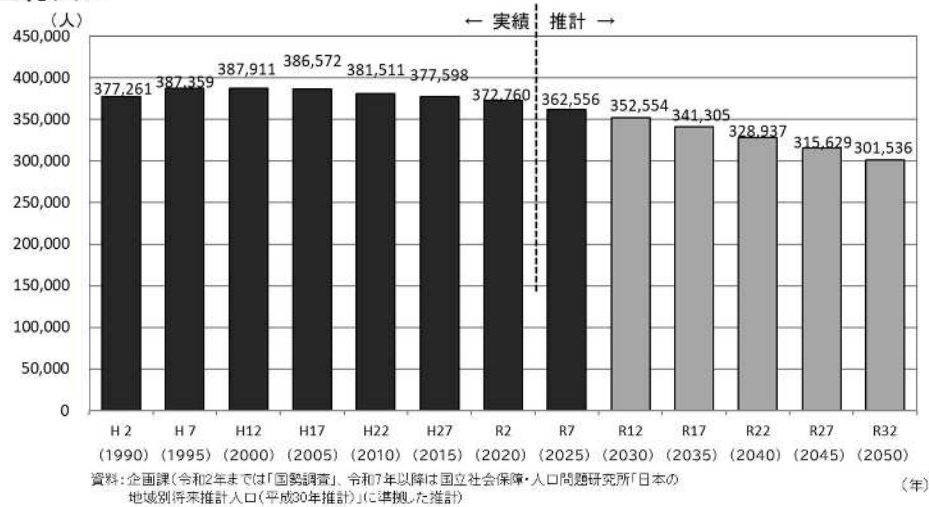
行政区域の広がり

## (2) 人口動態

### ア 人口

長野市の人口のピークは、平成 12(2000)年の 387,911 人で、それ以降は減少に転じている。今後も人口が徐々に減少していくとともに、平成 17(2005)年、平成 22(2010)年に合併した市町村を含めた周辺地域の人口減少と、その受け皿となる長野市街地への人口流入が続いていくと予想される。また県外（特に東京方面）への人口移動が傾向として見られる。

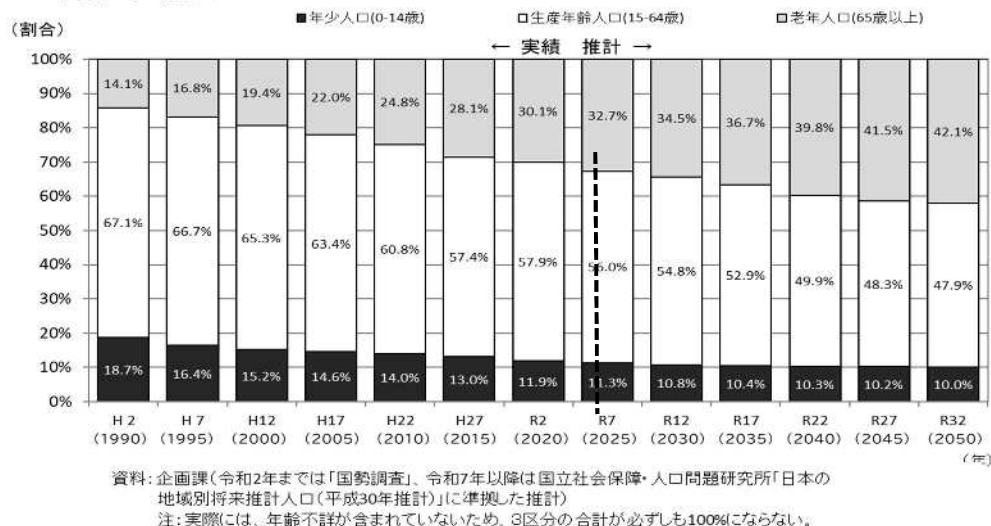
#### ■ 総人口



### イ 年齢区分別人口

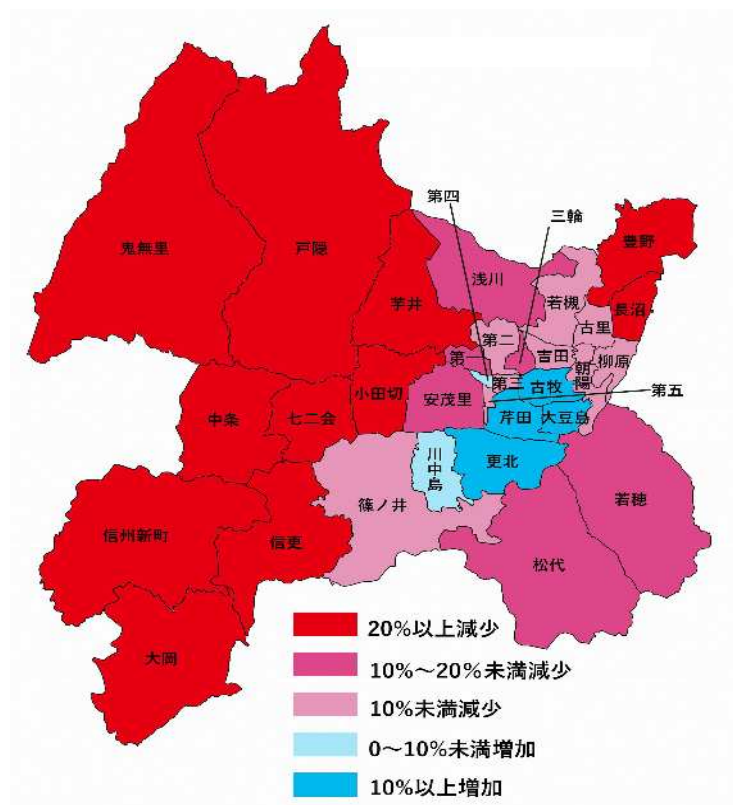
年齢構成をみると、年少人口、生産年齢人口の割合が減少する一方、老年人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進行している。平成 22(2010)年の老年人口の割合は 24.8%であったが、令和 2(2020)年には 30.1%となり、10 年間で 5.3%増加している。今後もこの傾向は続くと予想される。

#### ■ 年齢3区別人口



## ウ 地区別人口

地区別人口では令和5(2023)年4月時点で、篠ノ井の人口が最も多く、以下更北、長野(第一から第五地区)、川中島、芹田、古牧と続き、市域の平坦部に人口が集中している。逆に人口が少ないのは大岡、小田切、鬼無里、中条、芋井、信更といった盆地周辺の中山間地域となっている。町村合併で現在の長野市となった平成22(2010)年から令和5(2023)年までの地区別人口の増減率は、長野も含めてほとんどが減少しているが、特に中山間地域にその傾向が強くみられる。



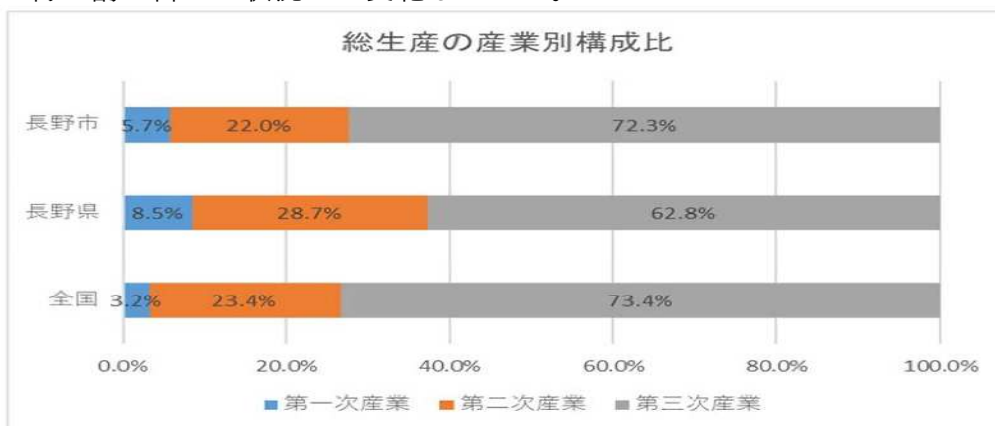
2010年～2023年の人口動態

### (3) 産業

#### ア 産業別の状況

第一次産業の農業に従事する戸数は減少傾向にあるが、そのなかでりんご・もも・ぶどうといった果樹は盛んに生産されている。りんごは全国2位の作付面積を有する長野県のなかで第1位の作付面積を誇る。ももについても全国3位の作付面積を有する長野県のなかで、県内1位の作付面積を誇り、川中島地区の川中島白桃など、地名を付したブランド品として出荷されている。第二次産業としては、出版・印刷業の企業数が多いのが特徴である。これは明治に県都となって以来、官公庁関係の印刷物の需要や、県民の教育への関心から来る

教育関連の印刷物への需要の高まりとともに発展してきたものである。しかし近年ではデジタル化の波で紙離れが進んでいるため状況は厳しくなっている。そのほか食料品、金属製品製造業、電子デバイス・情報通信機器関連などを中心に発展を続けてきたが、国際的な競争力が求められるにつれ、第三次産業が約7割を占める状況へと変化している。



資料：令和2年度国勢調査

## イ 観光

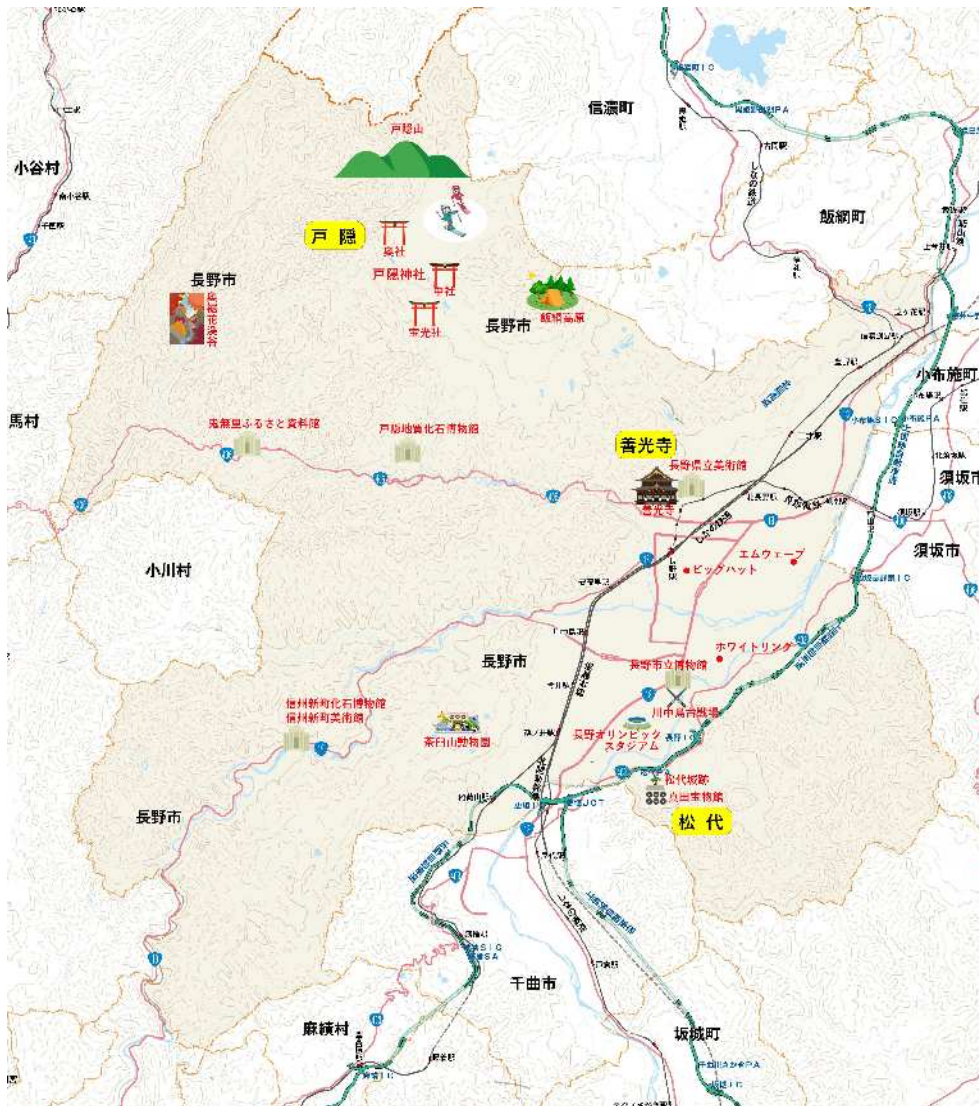
善光寺とその門前町は、古くから信仰の中心として全国の人々に親しまれ、周辺に広がる宿坊・仲見世などが観光の中心としてにぎわいをみせている。とりわけ、数え年で7年に一度開催される善光寺御開帳ぜんこうじごかいちょうの年は、例年に比べて飛躍的に観光客が増加する。真田十方石まんだじゅうまんごくの城下町である松代は、当時の面影を残した歴史的建造物が数多く見られる。これらの地域の観光資源を、住民自らが守り育てようと、「エコール・ド・まつしろ」などの取り組みが始まり、現在も、様々な団体がそれぞれの活動の中で、訪れる観光客をもてなしている。戸隠・鬼無里の西部山地地域は、豊かな自然環境の中に、古くから伝わる様々な歴史・文化・芸能があり、秘められた観光資源が残されている。

令和2(2020)年からは、新型コロナウイルス感染症感染拡大状況により、海外からの渡航や国内の往来に制限が度々かかることがあり、長野県及び長野市の観光地利用者数が落ち込んだが、感染が落ち着きを見せた令和4年以降利用者数は回復傾向にある。



出典：長野県「観光地利用者統計調査」第1章-8





市域の主な観光地

## ウ 土地利用

人口減少など社会情勢の変化による中心市街地の空洞化の進行、低・未利用地や空き家の増加などから都市的土地利用（住宅地、工業用地、店舗等）の需要が減少している。

農業の担い手不足による荒廃農地の増加や、木材価格の低迷等に伴う適切施策がされない森林の増加などから、農林業的土地利用の需要も減少している。

## エ 交通

長野市は明治4（1871）年以来、長野県の県庁所在地として発展を遂げ、官庁、金融機関、事業所などの都市機能の集積に伴い、活発な人的交流と情報が集中する中核都市として発展してきた。

善光寺門前に位置する長野市の中心市街地を中心に、道路と鉄道が整備されている。道路は長野市から名古屋市へ伸びている国道 19 号と、群馬県高崎市と新潟県上越市を結ぶ国道 18 号が交わる交通の結節点となっている。市内南部松代には、東西に上信越自動車道が走っており、長野 IC と市街地は国道 18 号と主要県道によって接続されている。

鉄道は平成 9 (1997) 年 10 月に J R 東京駅から J R 長野駅間において長野新幹線が開通し、首都圏から訪れる観光客の利便性が向上した。さらに平成 27 (2015) 年に金沢駅まで延伸したことで北陸方面からの観光客の利便性が向上した。また長野新幹線の名称は、金沢延伸により北陸新幹線に改められた。令和 6 (2024) 年 3 月には福井県の敦賀駅まで延伸したことで今後さらなる観光客の入り込みが想定される。在来線としては飯山市につながる J R 飯山線、松本市につながる J R 篠ノ井線、軽井沢町につながるしなの鉄道しなの鉄道線、上越市につながるしなの鉄道北しなの線があり、長野市と山ノ内町を結ぶ長野電鉄長野線がある。

市内のバスは長野電鉄が経営する長電バスと、アルピコ交通が経営するバス（通称川中島バス）が運行している。長電バスは長野駅から浅川や若穂に向かう路線や、長野市に接する須坂市、千曲市、飯綱町へ延びる路線など主に市域の東側に路線を持つ。このうち市域の松代を経由し須坂駅と千曲市の屋代駅を結ぶ路線は、平成 24 (2012) 年に廃線となった長野電鉄屋代線の代替路線である。アルピコ交通バスは、長野駅を起点として戸隠や鬼無里、松代にそれぞれ向かう路線があり、それらを含め、主に市域の西側に路線を持っている。



長野市の主要交通網

### 3 歴史的背景

#### (1) 旧石器時代～弥生時代

##### ア 長野盆地の黎明

長野市域の東部山地・西部山地に10か所の後期旧石器時代の遺跡が知られており、飯綱高原の<sup>あげやいせき</sup>上ヶ屋遺跡では関東・中部地域、東北・北陸地域、近畿・瀬戸内地域それぞれの技術系譜をひく石器が出土しており、地域交流の様子がうかがえる。

縄文時代に入ると、後氷期の気候変動で豊かな落葉広葉樹林の森ができ、食糧になる堅果類が豊富になった。シカ・イノシシなどの中・小型動物が繁殖し、千曲川とその支流は、海から回帰するシロザケ・サクラマスや淡水魚の宝庫となり、重要な食糧源となった。市域南部の若穂地区保科の<sup>みやぎいせき</sup>宮崎遺跡からはシカの角製の<sup>もり</sup>銛やサメの椎骨を利用した耳飾りが出土する。

この頃の平地は河川の流路が頻繁に変わる氾濫原であり常住が難しい場所であったが、千曲川河岸の地下4mからは縄文時代前期の集落が発見されており、縄文人が長野盆地を囲む山地から盆地の中州や自然堤防、扇状地に進出したことが確認できる。

##### イ 赤い土器のクニ

平地での水田耕作は弥生時代中期後半に本格化し、千曲川の自然堤防上に集落を構え、後背湿地に水田を作る現在につながる原風景が成立した。稲作農耕は社会の仕組みそのものを大きく変えた。ムラ同士の抗争も生まれた。市域東南部の松代地区にある<sup>まつばらいせき</sup>松原遺跡にみられる<sup>かんごうしゅうらく</sup>環濠集落は、弥生時代に集団間での抗争があったことを示している。



箱清水式土器（国鉄貨物基地遺跡）

弥生後期の長野市域を特色づける土器に「箱清水式土器」と呼ばれる赤い土器がある。これは、壺・鉢・<sup>たかつきがたどき</sup>高坏型土器の表面をベンガラで赤く塗った土器で、千曲川・犀川流域に広く分布している。これらの地域では土器だけでなく鉄や銅で作られた<sup>くしろ</sup>釧（ブレスレッド）や管玉（ネックレス）といった装飾品を用い、単独埋葬といった共通する習俗を持つ文化圏を形成した。この文化圏は箱清水式土器の特徴から「赤い土器のクニ」と呼ばれる。

## (2) 古墳時代～平安時代

### ア 大型古墳と積石塚古墳

古墳時代の前期末頃には、畿内の大型前方後円墳と同じ造りの大型の前方後円墳が長野でも築造された。その代表的な例は、篠ノ井地区の川柳将軍塚古墳であり、この地域を治める「王」が存在し、大和政権とのつながりを示す緩やかな政治圏が形成されていたことを示唆している。古墳時代中期後半になると、大型前方後円墳をつくった地域王権から独立した中小豪族の古墳が千曲川流域の各地に継続的に複数造られ、古墳群を形成した。千曲川右岸の松代地区では積石塚と合掌型石室の存在を特徴とする総数 500 基余の大室古墳群がある。



川柳将軍塚古墳出土の装飾品



大室 168 号墳（合掌形石室）

### イ シナノから信濃国へ

大化の改新(645年～650年)以降の律令制のもと、天武・持統朝に全国を60余の「国」に分ける政策によってシナノは科野国として成立し、中央から国司が派遣され国を治めた。科野国は律令制で定められた行政区五畿七道のうち東山道に区分され、越の蝦夷に備えるための前線に位置していた。東山道はまた、畿内から陸奥国に至る諸国の国府を結ぶ政治的、軍事的な道でもあり、市域にも北陸道へとつながる東山道の支道が設置された。

中央との関わりを示す出来事としては天武朝の頃、科野への遷都計画がたてられ、天武紀13(684)年に三野王が科野に派遣されたことや、持統朝では天候不順が長く続いた持統紀5(691)年に「須波神」(諏訪)と「水内の神」(長野)に勅使を派遣させた記録が残されている。

その後和銅6(713)年の好字令により諸国の国名が縁起の良い二文字に改められ、国名が「信濃」へと変更された。国の下には郡が置かれ、信濃には10の郡が置かれた。これらの郡を治める郡司には、律令制以前国造としてシナノ国を治めていた層が金刺舎人や他田舎人と名乗り、在地支配を担った。10の郡のうち北信濃には水内郡、埴科郡、更級郡、高井郡の4郡が置かれた。現在の長野市域はこれら4郡にまたがっている。

## ウ 中世への胎動

8～9世紀は天候不順や自然災害など相続く災害により古代の水田が荒廃し、人々も逃散するなど、律令制下の既存の権力が揺らぐ時期であった。上信越自動車道の建設に伴う広域におよぶ発掘調査でも、現在の善光寺平の水田の下に過去の洪水で埋没した条里水田が見つかり、その痕跡が確認されている。

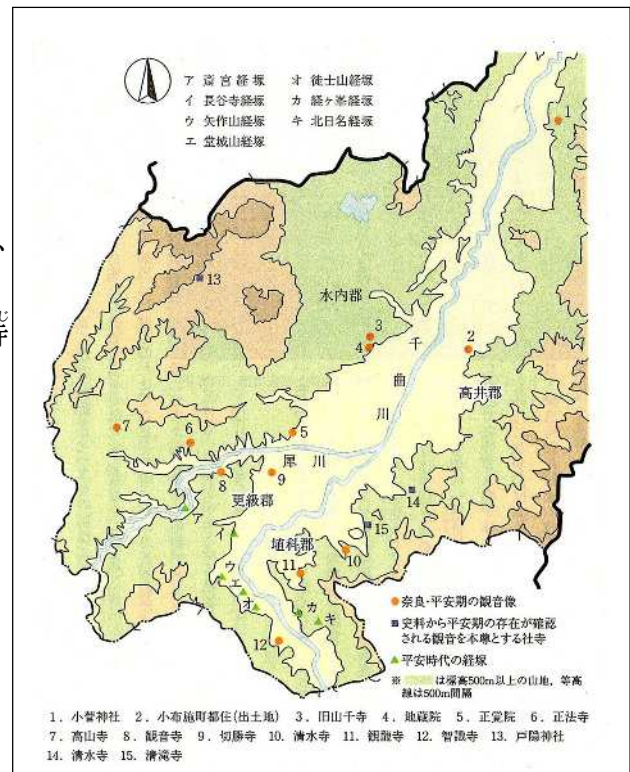


建設中のオリンピック開会式場と南宮遺跡

この時代、既存の権力が揺らぐ一方で富を蓄積させる新興の有力者が現れた。この頃長野盆地で進められた条里水田の再開発などは、台頭してきた富裕者層や郡司を国司の政庁（国衙）が組織して進めた事業であったと考えられている。篠ノ井東福寺・川中島御厨の南宮遺跡からは千軒を超える住居や、溝により区画された集落構造が見つかり、当時勢力を持ちつつあった有力者を中心とする集落であったと考えられる。

## エ 古代の長野盆地の社寺

10世紀頃になると全国的に摂関家藤原氏へ開発した土地を寄進しその土地の支配権を認めてもらう寄進地系荘園が増加する。市域でも千田荘、英多荘、芋河荘、太田荘などが成立した。現在、芹田地区稲葉の観音寺地蔵院、安茂里の正覚院、千曲市の観龍寺、智識寺などには平安時代の観音像が残されている。これらは当時市域に存在していた荘園の開発に伴いその中心をなした人々によって勧進されたものと想定され、全国的な観音信仰の広がりのなかで長野盆地においてもその影響を受けたことがうかがえる。10世紀後半以降は末法思想の影響で豊野町の鷲寺や篠ノ井の長谷寺などで経塚が作られるなど、北信濃一帯に観音信仰や末法思想が広がっていった。



北信濃の古代観音像・経塚及び寺社分布図（『古  
代中世人の祈り』長野市立博物館 1997より）

長野市の代表的な寺社である善光寺と戸隠神社(明治元年まで戸隠山顕光寺)の名が文献に現れるのは平安時代である。善光寺の名は10世紀に成立した『僧妙達蘇生注記』が初出とされる。戸隠山は平安初期には山岳信仰の霊地として注目され、文献では11世紀初め、歌人の能因法師がまとめた『能因歌枕』に信濃の歌枕の一つとして「とかくし」があげられており、この頃その存在が中央にも認知されていたことがわかる。

## オ 武士の成立

平安時代末には荘園の荘官のなかで武力によって勢力を伸ばす者が現れた。市域においても更級郡村上御厨(坂城町)を拠点に、栗田郷(芹田地区)や千田荘に進出してきた村上氏や、高井郡井上郷(須坂市)を拠点に村山郷(柳原地区及び須坂市)に進出してきた井上氏、水内郡永池郷(古牧地区及び朝陽地区)や同郡和田郷(古牧地区)を中心に活動していた和田氏などがその代表であった。そうした時代にあって、藤原氏に代わり、武力によって中央での勢力を伸長したのが平氏である。平氏の繁栄は平清盛によって築かれたが、清盛の晩年になると、その繁栄にも綻びが出始めるようになる。後白河法皇の第二皇子でありながら不遇の身であった以仁王が、治承4(1180)年源氏方の武士に宛てて平家討伐の命令を出すと、それに呼応して挙兵する動きが各地で起きた。木曾にいた源義仲も同年9月、平家追討のために木曾で挙兵し、京を目指して北上した。義仲軍は市域にも進出し、市原合戦(善光寺合戦)で平氏方の笠原頼直を討ち、翌年の養和元(1181)年6月には、越後の城資職を篠ノ井横田の地で破った(横田河原の戦い)。横田河原の戦いでは地元の井上氏や村上氏も義仲軍に従軍した。

## (3) 鎌倉時代～戦国時代

### ア 善光寺門前町の成立と発展

善光寺は治承3(1179)年に焼失したが、源平合戦に勝利した源頼朝の命によって12年後の建久2(1191)年に再建された。鎌倉幕府の主導による善光寺再建はその後、有力御家人を檀那とした新善光寺の建立や善光寺仏の模造の流行を呼び、鎌倉時代後期には善光寺信仰は全国各地へ広がった。それに伴って善光寺への参詣路も整備された。浄土教の教えを弘めた僧一遍(1234-1289)の生涯を描いた『一遍聖絵』(鎌倉時代後半成立)には、三国伝来の如来信仰の聖地として当時の善光寺や門前の賑わいが余すところなく描かれている。この時代に善光寺に参詣したことが記録からわかる人物には源頼朝をはじめとして一遍、久我雅忠の娘二条、他阿真教などがおり、伝承としては親鸞の名も伝えられている。

## イ 戦乱の時代

元弘3(1333)年鎌倉幕府が滅亡すると、市域はたびたび戦場となった。建武2(1335)年に北条高時の遺児、北条時行が諏訪氏を頼って挙兵すると、八幡河原、篠井河原、四宮河原で信濃国守護小笠原貞宗方と戦いこれを退けた。勢いに乗った時

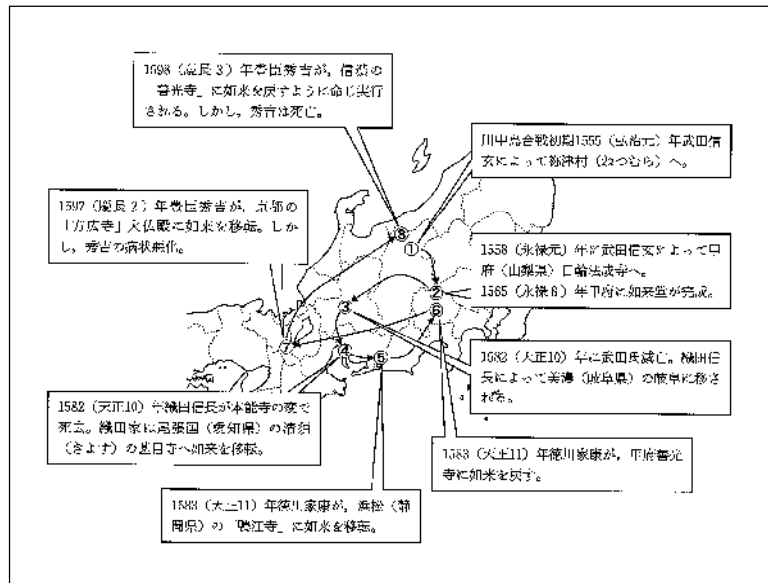


川中島甲越対陣図 (長野市立博物館蔵)

行軍は鎌倉まで進軍し、一時的に鎌倉を支配するが、その後足利尊氏軍により鎌倉を追われた(中先代の乱)。

室町時代には、応永6(1399)年幕府から信濃国守護に任じられ、翌年信濃国に入国した小笠原長秀の領国支配に反発した在地の国人領主らが、一揆を結び反抗し篠ノ井塩崎・二ツ柳周辺を戦場に長秀軍と戦い、これを敗退させた(大塔合戦)。

戦国時代になると北信濃は領地争奪の場となる。特に武田と上杉による川中島の合戦は北信濃一帯を戦場に、複数回にわたって戦いが繰り返された。この合戦により武田・上杉両軍によって善光寺の本尊や仏具が持ち去られ、本尊に従事する衆徒までも連れ去られたため門前町が衰退す



善光寺如来遷座の図

るなど、この地に大きな影響を与えた。善光寺如来は弘治元(1555)年に武田方によって善光寺から移され、以来慶長3(1598)年に豊臣秀吉の命により京都方広寺から善光寺に戻されるまでの43年間、そのときどきの権力者の意向によって流転を余儀なくされた。

なお、川中島の合戦の際、武田方の拠点として松代に造られた海津城は、江戸時代に入ると信濃国で最大の領国を治めた松代藩の中核として発展していく。

#### (4) 江戸時代

##### ア 交通運輸

江戸時代になると主要五街道（東海道・中山道・日光街道・奥州街道・甲州街道）に次ぐ脇街道として北国街道が整備された。北国街道は追分宿（軽井沢町）で中山道から分岐し、矢代宿（千曲市）を過ぎて二つに分かれる。一つは、丹波島宿から善光寺宿、牟礼宿（飯綱町）に至るルート、もう一つは、松代城下町を通り、福島宿（須坂市）、長沼宿、牟礼宿に向かうルートであった。長沼宿と松代城を結ぶ後者は松代道とも呼ばれ、戦国時代から江戸時代初期における主要ルートであったが、次第に善光寺町を通るルートが主となり、松代道は犀川の洪水による舟留めの際の迂回路として利用されるようになった。北国街道の発展はそれに接続する大笹街道や三原道、峰街道といった道の発展も促した。また江戸時代後半には千曲川や犀川で舟運が開通し、陸上交通とともに物流の一翼を担った。

一方、江戸時代に「山中」と呼ばれ、麻や和紙の産地となった長野盆地の西部中山間地域では、これらの流通の拠点として早くも慶長12(1607)年に新町（信州新町）に九斎市の開設が、天和3(1683)年に鬼無里に六斎市の開設が許可され、それぞれ物資集散の要所として栄えた。新町は松本と善光寺を結ぶ主要地となり、犀川に架かる久米路橋は松本藩領へと続く主要な道として口留番所が置かれた。さらに幕末には松本～信州新町間に犀川通船が開設され、物流の大動脈となった。鬼無里は、戸隠、高府、安曇野に通ずる道の分岐点に位置していたため、人と物とが頻繁に行き交った。白馬から善光寺へ向かう道沿いに建つ鬼無里土倉の文珠堂には、往時の賑わいを伝えるものとして、幕末から明治にかけてこの道を行き来した人々の落書きが残されている。

##### イ 真田十万石の城下町松代

江戸時代、長野市域の大半は松代藩領で占められ、残る地に幕府領、善光寺や戸隠山といった寺社、飯山藩、須坂藩、上田藩、塩崎知行所などの所領地が入り混じる形で存在していた。

松代藩の政庁である松代城は、川中島の戦いの際、武田信玄が築いた海津城がそのはじまりとされる。その後、領主の移り変わりと共に、城将・城代などが入れ替わり、それに伴い城下町も整備され、北信濃支配の拠点として重要な役割を担うようになった。



松代城下絵図（長野市立博物館蔵）



元和8(1622)年<sup>げんな</sup>真田<sup>さなだのぶゆき</sup>信之が上田から松代へ移封され、松代藩真田家の初代藩主となると、既に形作られつつあった松代城下町に上田から真田家ゆかりの寺社を移して城下に組み込み、町を再編成した。以来、真田家は明治の廃藩まで10代、約250年にわたり、松代藩主をつとめた。真田家は代々学芸を好み、領民を感化した。そうした気風によって幕末から明治初期には、時代をリードした<sup>さくましようざん</sup>佐久間象山や<sup>はせがわしやうどう</sup>長谷川昭道ら多才な人物が松代から輩出された。

## ウ 善光寺の再建と善光寺町の繁栄

川中島の合戦で、弘治元(1555)年に武田方によって善光寺如来が持ち去られると、善光寺の門前町も衰退した。善光寺に再び善光寺如来が戻されたのは、43年後の慶長3(1598)年である。その後、善光寺は江戸幕府より寺領千石の寄進を受け、次第に復興していくが、本堂が幾度か火災で焼失するなど災難が重なった。<sup>げんろく</sup>元禄5(1692)年には本格的な本堂再建計画が始まり、資金を調達するため京・<sup>おおさか</sup>大坂・<sup>えど</sup>江戸の三都で出開帳を催し、工事に際しては本堂の類焼を避けるため再建地を北へ移し、現在地に新敷地を造成した。しかし元禄13(1700)年の火災により、建築中の本堂も集積した用材とともに<sup>かいじん</sup>灰燼に帰した。これをうけて江戸幕府は再建を援助すべく、善光寺に全国を回る<sup>かいこくかいちやう</sup>回国開帳を許可し、松代藩に造営奉行を命じた。5年に及ぶ回国開帳は成功し、<sup>ほうえい</sup>宝永4(1707)年に現在の本堂が落成した。この回国開帳は善光寺の信仰を全国に広めることにもなった。

回国開帳を契機に参詣者が増大すると、信濃へ入る道は<sup>ぜんこうじどう</sup>善光寺道と呼ばれ、路傍には善光寺を指し示す道標が建てられた。善光寺の各院坊では信者を宿泊させ世話をするとともに、全国各地に善光寺講が組織され、門前は全国から来る参詣客を迎えることで繁栄をみせた。



善光寺宿駅繁花茶店の図（善光寺道名所図）

全国を巡る回国開帳は元禄14(1701)年から宝永3(1703)年の第1回を契機として、<sup>えんきやう</sup>延享4(1747)年～<sup>かんえん</sup>寛延元(1748)年、<sup>あんえい</sup>安永9(1780)年～<sup>てんめい</sup>天明2(1782)年、<sup>かんせい</sup>寛政6(1794)年～寛政10(1798)年の4回行われ、これらの出開帳で得られた資金を基に境内の整備が進められた。

## エ 戸隠神社と戸隠信仰

嘉祥<sup>かしやう</sup> 2 (849)年に<sup>がくもんぎやうじゆ</sup>学門行者によって開山されたとされる<sup>けんこうじ</sup>顕光寺（現在の戸隠神社）は、<sup>ほんいん</sup>本院、<sup>ちゆういん</sup>中院、<sup>ほうこういん</sup>宝光院からなる天台宗寺院で、江戸時代以前から多くの修験僧が修行に訪れる山岳信仰の聖地として栄えた。江戸時代に入ると戸隠の地主神である<sup>くずりゅうごんげん</sup>九頭龍権現が農業神として庶民の信仰を集めた。各院の衆徒は各地に講を組織し参詣者を迎え、善光寺と同様に宿泊と参拝の世話をした。また戸隠の衆徒が各地に出来た講に出向いて戸隠信仰を広めていった。明治時代に入ると<sup>しんぶつぶんりれい</sup>神仏分離令によって顕光寺の僧は還俗して神職となり現在の<sup>おくしや</sup>奥社、<sup>ちゆうしや</sup>中社、<sup>ほうこうしや</sup>宝光社、<sup>くずりゅうしや</sup>九頭龍社、<sup>ひのみこしや</sup>火之御子社の五社からなる神社組織となった。



午王宝印に描かれた九頭竜権現

## オ 善光寺木綿と山中麻

江戸時代の市域の代表的な作物に木綿と麻があった。木綿は18世紀に入って市域の平坦部で作られるようになる。主に水田を利用して栽培され、最盛期には水田の3～4割を木綿栽培が占めるような状況であった。木綿は布の原料として、善光寺門前町にたてられた木綿市で取り引きされ、最盛期には善光寺木綿の名で各地に移出された。しかし近代に入り海外との交易が始まるとインドから入ってくる木綿に押され、急速に衰退していった。

麻は、江戸時代「山中」と呼ばれた市域の西部中山間地域で、近世以前から栽培が続けられてきた。衣料や糸などの原料となった麻は、領主にとって重要な収入源として認識されており、江戸時代初期には他領への移出の制限や、領主側による定額での買占めなどが行われた。その後農家側が麻運上を納めることで、自由売買が認められるようになったが他領への売買は依然許可制であった。一般に近世中期以降、木綿衣料の普及により麻生産は減少していくが、山中麻の場合、畳糸や蚊帳地といった商品に加工したものを移出していたので特産化し、その生産は昭和30年代まで続いた。

## カ 近世長野の庶民教育と文化

江戸時代の信濃国における寺子屋や私塾の普及率は全国一といわれ、各地の寺子屋では手習い、読み書きにはじまり、商業の盛んな地域では算盤も教えられた。市域には寺子屋師匠を顕彰し供養するため生徒たちによって建てられた筆塚があるが、その数は2,000を超える。

江戸時代後期、経済が発展すると知識人の交流も盛んとなり、俳諧や、謡、挿花などの文化的活動が広まった。特に俳諧は北信濃随一の商都として人と情報交流の場でもあった善光寺門前町を中心に、在野の俳諧師によって市域中に広まった。吉田出身の茂呂何丸もろなにまるや信濃町柏原村出身の小林一茶こばやしいつきが活躍し、市域を含め北信濃の俳諧師や門人たちと積極的に交流した。長沼には熱心な一茶の門人が多くおり、彼らは長沼十哲ながぬまじってつと呼ばれた。現在でも市域の神社仏閣には当時奉納された俳額が多く残されている。

## キ 善光寺地震

江戸時代末の弘化4(1847)年3月に北信濃を襲った地震はマグニチュード7.4と推定され、甚大な被害をもたらした。このとき善光寺では御開帳が行われており、全国から多数の参詣客が集まっていた。参詣客も、地震によって倒壊する家屋の下敷きになったり、各所で発生した火災に巻き込まれ、数



地震後世俗語之種(真田宝物館蔵)

千人の犠牲者が出た。また地震により信更村涌池しんこうむらわくいけにあった虚空蔵山こくぞうざんが崩れて犀川を堰き止め巨大な湖を作った。この湖は地震発生から20日後に決壊し、長野盆地一帯の人家を押し流す大洪水をひき起こした。その痕跡は各地に作られた洪水による犠牲者供養の石碑に見ることができる。また上松の昌禅寺うえまつしやうぜんじには、洪水によって押し流された巨大な石塊から作った地藏菩薩が祀まつられている。

## (5) 明治時代～昭和20年

### ア 長野の近代化

明治4(1871)年6月、高井郡中野町たかいぐんなかのまち(現中野市)にあった中野県庁を長野村の内、善光寺町へ移し「長野県」と改称する太政官布告が発せられ、7月、仮庁舎となった西方寺で執務が開始された。同月、廃藩置県によって松代藩は松代県となるが、11月、佐久郡さくぐん、小県郡ちいさかたぐん、埴科郡、更級郡、高井郡、水内郡にあった7県すべてが長野県に編入された。その後明治9(1876)年には筑摩県を廃し筑摩郡、安曇郡、諏訪郡、伊那郡を合併し、旧信濃国10郡すべてが長野県となった。この間、善光寺が所在する長野村は、「県都」として市街の近代化が急速に進められた。明治7(1874)年には長野村が長野町とな



当時の長野停車場  
(扇屋引札 長野市立博物館蔵)

り、明治 22(1889)年の町村制施行では周辺の南長野町、西長野町、鶴賀町、茂菅村を合併し、明治 30(1897)年には県下初の市制を施行して長野市となった。

明治 21(1888)年に鉄道が開通すると貨物輸送量が急速に増加し、商品流通が活発となり、商工業が発展し近代的市街地が形成された。大規模敷地を要する官庁や文教施設は市街地縁辺部に設置され、市街地との連絡道路が建設されることで、新しい町が生まれ市街地が拡大した。大正 12(1923)年には三輪村・芹田村・吉田町・古牧村を編入合併してさらに市域を広げた。

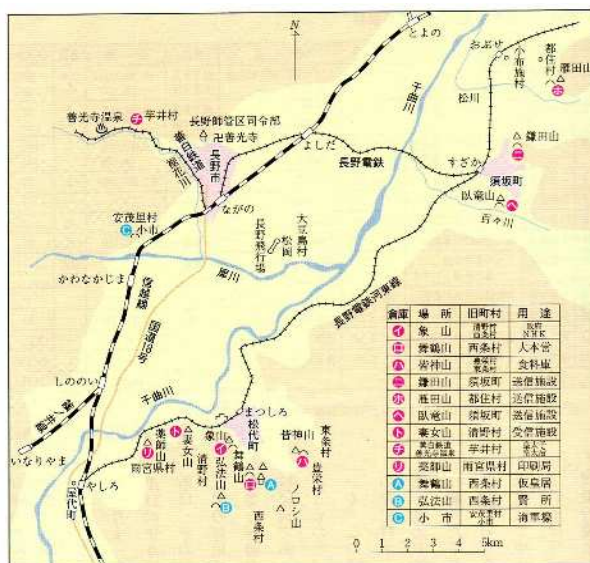
### イ 製糸業の隆盛と衰退

近代に入り日本の生糸が海外で好評を博すと、国も富国策として繊維産業の発展に力を入れたため、市域でも蚕を飼う養蚕農家が急増した。明治 7(1874)年には旧松代藩士大里忠一郎らが、松代町西条に民間資本による器械製糸場を設立した(西条村製糸場、後に六工社と改称)。六工社には官営の富岡製糸場で工女として働き、蒸気器械製糸技術を学んだ和田(横田)英ら十数名が技術指導者として参画した。

昭和 2(1927)年、ニューヨークのウォール街での株価の大暴落に端を発した世界恐慌は日本にも及び、昭和 5(1930)年に主要輸出品だった生糸の価格が大暴落する昭和恐慌が始まった。ほとんどの農家が養蚕を行い、製糸工場で働いていた女工も多かった市域の影響は甚大であった。これに対し長野市では失業救済事業として、大峰山麓の展望道路、市営球場、市民プールの修理増設などを行う雇用対策を講じた。昭和 7(1932)年に円相場が下落し円安となると、日本は輸出を急増させたため景気が急速に回復したが、製糸業は海外での化学繊維の普及により、少しずつ衰退していった。

### ウ 太平洋戦争下の長野

昭和 16(1941)年の真珠湾攻撃に始まる太平洋戦争は、年を追うごとに日本側の劣勢となっていた。敗色が濃厚になる昭和 19(1944)年になると天皇と直属の最高作戦指導機関の大本営を東京から長野へ移す計画が陸軍を中心に立てられ、同年 10 月に松代の象山、舞鶴山、皆神山に巨大な地下壕を設ける移転工事が始まった。



松代大本営関係施設 (『松代大本営 歴史の証言』)

翌年8月15日、日本の降伏によって戦争が終結したため、工事は中止されたが、本体の8割方は完成していた。工事の主要な労働力は勤労働員、学徒動員、朝鮮労働者らが担ったとされる。

昭和20(1945)年アメリカ軍による本土爆撃も各地で激しさを増した。長野市は終戦日2日前の8月13日の早朝午前6時50分頃から午後3時50分頃まで6回にわたって機銃掃射や爆撃をうけた。この空襲では長野飛行場、国鉄長野駅機関区などの軍事・公共施設のほか長野飛行場の近くにあった大豆島国民学校も攻撃の対象となった。このときの空襲による死者は47人とされている。

## (6)昭和20年～現在

### ア 4度の市町村合併

昭和28(1953)年の町村合併促進法により、翌29(1954)年に古里・長沼・柳原・朝陽・大豆島・安茂里・小田切・芋井・浅川・若槻の周辺10か村が長野市に編入合併した。昭和37(1962)年には広域都市の設置を目指して、長野市が近隣市町村に合併を呼びかけ、同41(1966)年に篠ノ井市・松代町・川中島町・若穂町・更北町・信更村・七二会村との大合併が成立した。平成に入って地方分権の推進や行政の効率化を目的として国が打ち出した「平成の大合併」により、平成17(2005)年に豊野町・戸隠村・鬼無里村・大岡村が、平成22(2010)年に信州新町・中条村が長野市に編入合併した。

### イ 戦後の自然災害

昭和40(1965)年から松代で微小の地震が日に何度も起きる群発地震が発生、昭和44(1969)年に終息するまで地震総回数は64万8,000回を数えた。昭和60(1985)年には地附山の南東斜面で大規模な地すべりが発生し、26人の犠牲者と多くの住宅被害を出した。台風による犀川や千曲川の氾濫、堤防決壊は戦後何度となく起こり、そのたびに農地や家屋が被害に遭った。特に令和元(2019)年には長沼地区や豊野地区を中心にかつて例を見ないほどの多くの被害が出たが、住民の努力と多くのボランティアの尽力で、生活は再建され、地域の復興に向けた取組みが進められている。なお、水損した歴史資料は長野市立博物館の文化財レスキュー活動により一部は所有者に返却されたが、現在でも博物館で、残る資料の安定化作業が続けられている。

### ウ 高速道路と長野新幹線の開通

昭和40年代からの自動車普及に伴い、全国各地で自動車道の建設が行われるようになった。長野では昭和48(1973)年に決定した岡谷市から長野市間の自動車道整備計画により、平成5(1993)年に長野自動車道・上信越自動車道が開通

した。新幹線は北陸新幹線の基本計画がすでに昭和 47(1972)年に決定されていたが、なかなか着工されなかった。しかし、冬季オリンピックが平成 10(1998)年に開催されることが決まり、平成 9(1997)年に長野・東京間を最短 1 時間 19 分で結ぶ長野新幹線が開業した。その後平成 27(2015)年に線路が金沢まで延伸し、北陸新幹線と名称を変更している。



長野自動車道・上信越自動車道開通式

## エ 冬季オリンピック・パラリンピックの開催

平成 10(1998)年に開催されたオリンピック冬季競技大会・パラリンピック冬季競技大会は、長野市を中心に 5 市町村（パラリンピックは 4 市町村）が会場となった。長野市ではオリンピック・パラリンピックの開催により競技施設が充実するとともに、各国から来る外国人との交流も盛んになった。特にこのときに始められた各国の選手と長野市内の小学校の児童が交流する「一校一国運動」は、後のオリンピック開催国にも引き継がれ、長野冬季オリンピック・パラリンピック最大のレガシーとなっている。

このような国際的なイベント開催を経た長野市では平成 17(2005)年にはスペシャルオリンピックス冬季大会が開催されるなど、国際会議観光都市として、様々なコンベンションが誘致・開催されている。

## 第2章 長野市の文化財

### 1 文化財に関するこれまでの調査

これまでに本市域で実施された行政や大学等研究機関による文化財調査の主なものは下表のとおりである。

| 文化財調査・調査報告書名                | 実施・刊行時期     | 実施主体             | 概要  |
|-----------------------------|-------------|------------------|---|
| 「長野県民俗調査10 松代町の民家」          | 1970年       | 長野県教育委員会         | 文化庁の補助事業「民家緊急調査」の一環として実施。武家屋敷9棟、町家3棟、城絵図等を調査。   |
| 「裾花溪谷の民俗－裾花川ダム水没地区民俗資料緊急調査」 | 1971年       | 長野県教育委員会         | 文化庁の補助事業「民俗資料緊急調査」の一環として実施。   |
| 「戸隠－総合学術調査報告」               | 1971年       | 戸隠総合学術調査実行委員会    | 1963年から3か年にわたって戸隠山の歴史・美術・建築・考古・民俗・地理・地質・動物・植物各分野を対象にした総合的な学術調査を実施し、1971年に調査成果を取りまとめた報告書を刊行。 |
| 長野市石造文化財調査                  | 1977年～1982年 | 長野市教育委員会         | 「郷土を知る会」に委託し、悉皆調査を実施。「長野市の石造文化財」第一集～第五集にまとめ、刊行。   |
| 「北国街道－歴史の道調査報告書III」         | 1980年       | 長野県教育委員会         | 文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。   |
| 「善光寺道－歴史の道調査報告書IV」          | 1981年       | 長野県教育委員会         | 文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。   |
| 長野県近世社寺建築緊急調査               | 1981年度      | 長野県教育委員会         | 文化庁の補助事業「近世社寺建築緊急調査」の一環として実施。長野市域（長野市・豊野町・信州新町・戸隠村・鬼無里村・中条村・大岡村）の近世社寺52ヶ所の把握。そのうち14社寺の詳細調査。 |
| 「庭園都市松代 伝統的建造物群保存対策調査報告書」   | 1982年       | 長野市教育委員会・東京大学工学部 | 文化庁の補助事業「伝統的建造物群保存対策調査」の一環として、伝統的建造物保存地区制度の導入に向けた地域調査を実施。                                   |
| 「長野県民俗文化財分布調査報告書」           | 1984年度      | 長野県教育委員会         | 文化庁の補助事業「民俗文化財分布調査」の一環として実施。  |
| 「長野県の民謡－民謡緊急調査報告書」          | 1984年       | 長野県教育委員会         | 文化庁の補助事業「民謡緊急調査」の一環として実施。   |
| 「裾花川通り大町道－歴史の道調査報告書XIV」     | 1985年       | 長野県教育委員会         | 文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。   |
| 「土尻川通り大町道－歴史の道調査報告書XV」      | 1985年       | 長野県教育委員会         | 文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。   |
| 「長野市松代三町水路活性化についての調査報告書」    | 1985年       | 信州大学工学部          | 松代町の水路網・水源地の調査。   |
| 「戸隠道－歴史の道調査報告書XVI」          | 1986年       | 長野県教育委員会         | 文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。   |
| 「中条村の石造文化財」                 | 1988年       | 中条村教育委員会         | 旧村時代に実施した中条地区の石造物悉皆調査の報告書。  |
| 「保科道－歴史の道調査報告書XXVIII」       | 1989年       | 長野県教育委員会         | 文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。   |
| 「長野市屋台会館建設に関する基礎調査報告書」      | 1989年       | 長野市商工部観光課        | 1987年12月から翌年の1月までの間に実施された長野市の屋台に関する実態調査をまとめたもの。   |
| 長野県近世社寺建築第二次調査              | 1990年       | 長野県教育委員会         | 長野市域の15社寺を調査。   |
| 「長野県の諸職－長野県諸職関係民俗文化財調査報告書」  | 1990年       | 長野県教育委員会         | 文化庁の補助事業「諸職関係民俗文化財調査」の一環として実施。  |

| 文化財調査・調査報告書名              | 実施・刊行時期       | 実施主体                 | 概要  |
|---------------------------|---------------|----------------------|---|
| 「千曲川－歴史の道調査報告書XXXⅠ」       | 1991年         | 長野県教育委員会             | 文化庁の補助事業「諸職関係民俗文化財調査」の一環として実施。  |
| 「犀川－歴史の道調査報告書XXXⅡ」        | 1992年         | 長野県教育委員会             | 文化庁の補助事業「諸職関係民俗文化財調査」の一環として実施。  |
| 「鬼無里の石仏」                  | 1994年         | 鬼無里村教育委員会            | 旧村時代に実施した鬼無里地区の石造物悉皆調査の報告書。   |
| 「むしくら－虫倉山系総合調査研究報告－」      | 1994年         | 虫倉山系総合調査研究会          | 1987年～1994年にかけて、長野市・旧戸隠村・旧鬼無里村・旧中条村・小川村が共同で、虫倉山に関わる人文・自然分野の総合調査を実施し、報告書を刊行。               |
| 「長野県の民俗芸能－長野県民俗芸能緊急調査報告書」 | 1995年         | 長野県教育委員会             | 文化庁の補助事業「民俗芸能緊急調査」の一環として実施。市域では松代地区の大門踊り、安茂里地区の犀川神社太々神楽、戸隠地区戸隠神社の太々神楽が詳細調査の対象となっている。      |
| 伝統的祭り・行事・民俗芸能等の調査         | 1999年度        | 長野市教育委員会文化課          | 旧長野市域で行われている民俗芸能等の実態把握を目的に地域公民館へアンケート調査を実施。伝統的祭り・行事・民俗芸能、合わせて267の事例を把握。獅子舞については50の事例を把握。  |
| 「戸隠村の石造文化財」               | 2004年度        | 戸隠村教育委員会             | 旧村時代に実施した戸隠地区の石造物悉皆調査の報告書。  |
| 善光寺周辺伝統的建造物群保存予定地区調査      | 2004年度～2008年度 | 長野市教育委員会文化財課・信州大学工学部 | 文化庁の補助事業「伝統的建造物群保存対策調査」の一環として、伝統的建造物保存地区制度の導入に向け善光寺本堂を含め本坊、宿坊群、仲見世、門前商家、周辺寺院の悉皆的建造物調査を実施。 |
| 「信州新町の仏さま」                | 2007年         | 信州新町教育委員会            | 旧町時代に実施した信州新町地区にある仏像の悉皆調査報告書  |
| 「長野県の近代化遺産」               | 2009年         | 長野県教育委員会             | 文化庁の補助事業「近代化遺産（建造物等）総合調査」の一環として実施。市域では善光寺門前の醸造や善光寺門前の商家、長野県庁舎、松代大本堂跡などが取り上げられている。         |
| 「中条村の神さま仏さま」              | 2009年         | 中条村教育委員会             | 旧村時代に実施した中条地区にある仏像の悉皆調査報告書  |
| 「大岡の石仏：大岡地区石造物調査報告書」      | 2011年         | 長野市立博物館              | 旧大岡村の石造物悉皆調査。   |
| 長野市戸隠地区伝統的建造物群保存対策調査      | 2014・2015年度   | 長野市教育委員会文化財課・信州大学工学部 | 文化庁の補助事業「伝統的建造物群保存対策調査」の一環として、伝統的建造物保存地区制度の導入に向け戸隠神社を中心に形成された門前町の悉皆的建造物調査を実施。             |
| 「松代城下町庭園調査報告書」            | 2015年         | 長野市教育委員会文化財課・信州大学農学部 | 松代地区の庭園・水路網の調査。   |
| 「長野県の近代和風」                | 2018年         | 長野県教育委員会             | 文化庁の補助事業「近代和風建築総合調査」の一環として実施。   |
| 地域のお祭り調査                  | 2018年度        | 長野市文化スポーツ振興部文化芸術課    | 長野市域内で結成されている神楽保存会256団体（うち13団体は活動中止中）を把握。   |

※このほかに埋蔵文化財調査が169件ある



## 2 地域計画の作成に伴う調査

本計画の作成に伴い、既往資料調査・現地調査・アンケート調査を実施した。

### (1) 既往資料調査

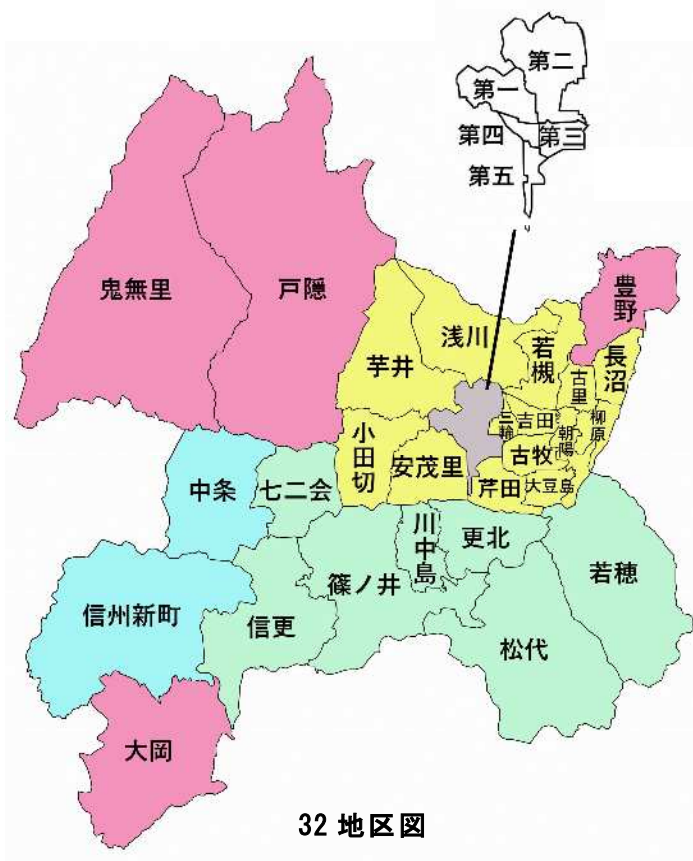
ア 先に挙げた文化財調査の報告書を含めた長野市域に関わる郡史・地域誌、住民自治協議会や自治会などが発行した自治会誌(史)、郷土雑誌等に掲載された歴史学・民俗学・考古学及び建築・街並み・民話・自然・災害等の調査研究成果といった文献を収集した。(計 2,024 件)

イ 国県市指定文化財、遺跡全件一覧表、地域伝統芸能一覧(文化芸術課作成)、地域のお祭り(文化芸術課作成)のほか、上記アの文献から抽出される文化財のリストを統合して 32 地区別に分けた(リスト化した文化財 4,635 件、地区別種別件数は下表参照)。ただし、未指定の文化財については所在の確認までには至っていないものが多いため、計画作成後に確認調査を進めていく必要がある。

長野市 32 地区文化財リスト (地区別種別件数)

| 地区  | 有形文化財 |       |    |     |    |    |     |      |       | 民俗文化財    |          |        | 記念物 |     |    |    | 伝統的建造物群 | 地区別合計 |      |
|-----|-------|-------|----|-----|----|----|-----|------|-------|----------|----------|--------|-----|-----|----|----|---------|-------|------|
|     | 建造物   | 美術工芸品 |    |     |    |    |     |      | 無形文化財 | 有形の民俗文化財 | 無形の民俗文化財 |        | 遺跡  | 名勝地 | 植物 | 動物 |         |       | 地質鉱物 |
|     |       | 絵画    | 彫刻 | 工芸品 | 書跡 | 典籍 | 古文書 | 歴史資料 |       |          | 考古資料     | 民俗風俗習慣 |     |     |    |    |         |       |      |
| 第一  | 10    |       |    | 1   |    |    | 129 | 9    |       |          | 5        | 10     | 6   |     |    |    |         |       | 170  |
| 第二  | 24    | 34    | 9  | 10  | 1  |    | 198 | 2    | 1     | 1        | 10       | 8      | 5   | 2   |    | 1  |         |       | 306  |
| 第三  | 1     |       |    |     |    |    | 53  |      |       |          | 5        | 1      | 1   |     |    |    |         |       | 61   |
| 第四  | 5     |       | 2  | 1   |    |    | 37  | 4    | 1     |          | 3        | 1      | 1   |     |    |    |         |       | 55   |
| 第五  | 2     |       | 1  | 1   |    |    | 7   | 5    |       |          | 2        |        | 3   |     |    |    |         |       | 21   |
| 芹田  | 8     |       | 4  |     |    |    | 66  |      | 2     |          |          | 20     | 8   |     |    |    |         |       | 108  |
| 古牧  | 24    | 5     | 5  |     | 3  |    | 5   | 2    |       |          | 43       | 9      | 5   |     | 13 |    |         |       | 114  |
| 三輪  | 1     |       |    |     |    |    | 47  |      |       |          |          | 2      | 4   | 1   |    |    |         |       | 55   |
| 吉田  | 3     | 2     |    |     |    |    | 9   | 1    |       |          |          | 11     | 6   | 2   |    | 1  |         |       | 35   |
| 古里  | 22    |       |    |     |    |    | 15  |      |       |          |          | 7      | 7   | 7   |    | 1  |         |       | 59   |
| 柳原  | 8     |       |    |     |    |    | 17  |      |       |          | 1        | 5      | 4   |     |    |    |         |       | 35   |
| 浅川  | 2     |       |    |     |    |    | 7   |      |       |          |          | 18     | 7   | 4   |    |    |         | 1     | 39   |
| 大豆島 | 10    |       |    |     |    |    | 19  |      |       | 1        |          |        | 4   | 4   |    |    |         |       | 38   |
| 朝陽  | 1     |       |    |     |    |    | 18  | 1    |       |          |          | 9      | 8   |     |    |    |         |       | 37   |
| 若槻  | 64    |       | 13 |     |    |    | 27  | 3    |       |          | 1        |        | 9   | 18  |    | 1  |         |       | 136  |
| 長沼  | 26    | 3     | 2  |     | 2  | 2  | 24  |      |       |          |          | 3      | 7   | 6   | 2  | 3  |         |       | 80   |
| 安茂里 | 15    | 3     | 28 | 2   | 1  |    | 119 | 20   | 6     |          |          | 16     | 6   | 4   |    |    |         |       | 220  |

| 地区   | 有形文化財 |       |     |     |    |    |      |      |       | 民俗文化財    |          |      |     | 記念物 |    |    |      |      | 伝統的建造物群 | 地区別合計 |
|------|-------|-------|-----|-----|----|----|------|------|-------|----------|----------|------|-----|-----|----|----|------|------|---------|-------|
|      | 建造物   | 美術工芸品 |     |     |    |    |      |      | 無形文化財 | 有形の民俗文化財 | 無形の民俗文化財 |      | 遺跡  | 名勝地 | 植物 | 動物 | 地質鉱物 |      |         |       |
|      |       | 絵画    | 彫刻  | 工芸品 | 書跡 | 典籍 | 古文書  | 歴史資料 |       |          | 考古資料     | 風俗習慣 |     |     |    |    |      | 民俗芸能 |         |       |
| 小田切  | 51    |       | 6   |     |    |    | 42   |      | 1     |          |          | 2    |     | 8   | 18 |    | 5    | 133  |         |       |
| 芋井   | 7     |       | 16  |     |    |    | 19   | 2    |       |          |          | 27   | 7   | 2   |    | 9  |      | 89   |         |       |
| 篠ノ井  | 57    | 1     | 8   |     |    | 1  | 114  | 22   | 12    |          |          | 24   | 29  | 8   |    | 2  |      | 278  |         |       |
| 松代   | 180   | 21    | 20  | 12  | 4  | 1  | 129  | 28   | 1     | 3        | 1        | 23   | 12  | 24  | 8  | 3  | 2    | 472  |         |       |
| 若穂   | 107   | 4     | 57  | 2   | 1  |    | 120  | 15   | 4     |          | 3        | 29   | 24  | 4   |    | 2  | 1    | 374  |         |       |
| 川中島  | 26    |       | 4   |     | 1  |    | 87   | 2    |       |          | 1        | 21   | 20  | 3   |    |    |      | 165  |         |       |
| 更北   | 49    | 7     | 6   | 1   |    |    | 150  | 1    | 1     |          | 1        | 19   | 14  | 5   |    | 2  |      | 256  |         |       |
| 七二会  | 18    |       | 3   |     |    |    | 112  |      |       |          |          | 4    | 9   | 1   |    | 4  |      | 151  |         |       |
| 信更   | 66    |       | 6   |     | 5  |    | 30   | 1    |       |          |          | 50   | 2   | 1   |    |    |      | 161  |         |       |
| 豊野   |       |       | 3   | 1   | 1  |    | 94   | 1    | 3     | 2        | 7        |      | 8   | 6   | 1  | 5  |      | 133  |         |       |
| 戸隠   | 39    |       | 8   | 2   | 2  |    | 1    | 4    |       | 1        |          | 6    | 22  | 13  | 1  | 9  | 1    | 112  |         |       |
| 鬼無里  | 36    | 3     | 8   | 6   |    |    | 107  | 6    |       |          |          | 1    | 10  | 4   | 1  | 13 | 2    | 208  |         |       |
| 大岡   | 38    |       | 3   |     |    | 1  | 85   | 4    |       |          |          | 4    | 5   | 1   | 1  | 3  |      | 145  |         |       |
| 信州新町 | 5     |       | 223 |     |    |    |      |      | 1     |          |          | 5    | 3   | 1   | 1  |    | 4    | 243  |         |       |
| 中条   | 5     | 1     | 128 |     |    |    |      |      |       |          |          | 6    | 3   |     | 2  |    | 1    | 146  |         |       |
| 計    | 910   | 84    | 563 | 39  | 21 | 5  | 1887 | 133  | 33    | 8        | 40       | 364  | 268 | 131 | 23 | 93 | 6    | 26   | 1       | 4635  |



## (2) 現地調査(令和3年度～5年度)

地域計画作成後の文化財把握調査を見据え、モデルケースとして市立博物館を中心に善光寺(第二地区)周辺地域における仏教美術及び祭礼調査を実施した。調査結果については計画作成後、市立博物館の展示あるいは報告書等で公開する予定である。

### ア 仏教美術調査

善光寺の周辺には数多くの寺院が存在するが、仏教美術に関してはこれまで悉皆調査が行われてこなかった。そのため市立博物館を中心に、外部からの有識者の協力を得ながら3年間で悉皆的な調査を実施した。調査対象とした寺院は善光寺大勸進(第二地区)を中心に、善光寺にゆかりがある往生寺(第一地区)・仏導寺(芹田地区)・無常院(安茂里地区)・正覚院(安茂里地区)・長谷寺(篠ノ井地区)・常行寺(川中島地区)・今里阿弥陀堂(川中島地区)・観音寺(第五地区)等で、平安から鎌倉期制作の仏像が新たに複数確認されるなどの成果が見られた。

### イ ながの祇園祭調査

現在、毎年7月に行われているながの祇園祭は、善光寺周辺の町を中心として行われ、「善光寺祇園祭」、「弥栄神社御祭礼」等と呼ばれてきた屋台の巡行を伴う祭礼であり、通称「御祭礼」と呼ばれている。江戸時代より続く祭礼であるが、戦後に一時途絶え、その後「ながの祇園祭」として復活した。

「御祭礼」についてはこれまでも研究調査が行われているが、祭り総体を捉えた本格的な調査はされてこなかった。本調査では調査成果の活用により善光寺周辺地域の活性化や研究の発展に寄与することを目的とし、祭礼の中断から「ながの祇園祭」として復活した経緯や、現在の御祭礼の状況について重点的に調査をおこなった。

## (3) アンケート調査

### ア まちづくりアンケート調査

まちづくりアンケートは、市政に対する市民ニーズ、市が実施する事業に対する考え方、意見、優先度などを調査し、今後の施策の基礎資料とするため毎年実施しているものであるが、このアンケートで令和3(2021)年に「長野市における文化財の保存と活用をめぐる状況について」の設問を設定し、文化財に対する市民の意識調査を実施した。

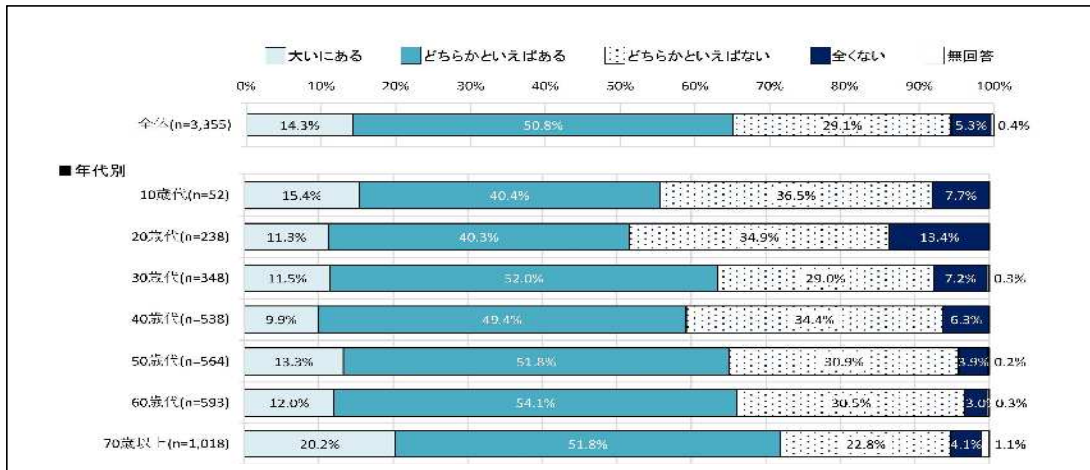
アンケートは市内在住の18歳以上の男女で、住民基本台帳から無作為に抽出した5,000人を対象に行い、3,355人から回答を得た。

上記の設問について以下の五つの質問事項を設定した。回答方法はいずれも選択肢を選ぶ方式とした。

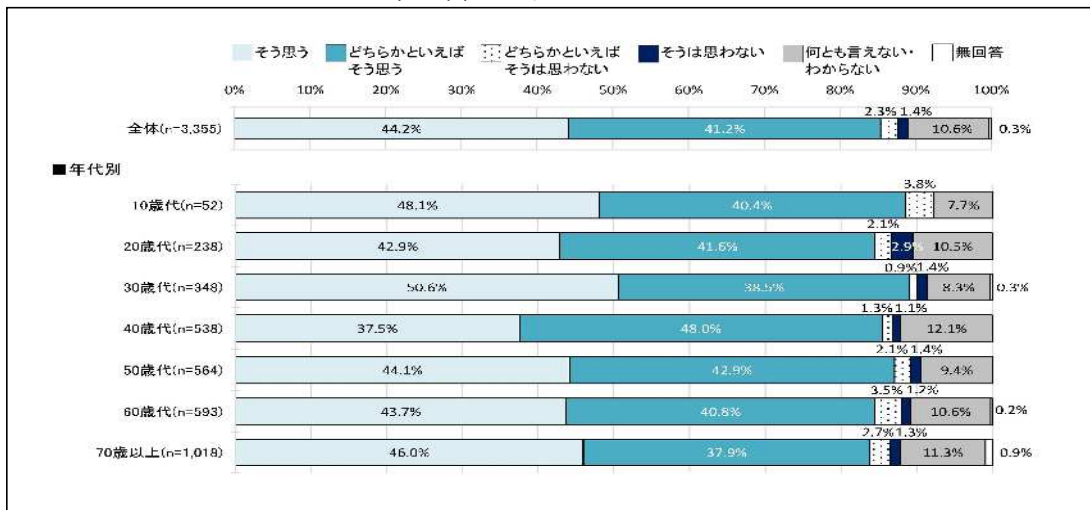
1. あなたは、長野市の歴史や文化について関心がありますか
2. あなたは、長野市の歴史や文化を保存・活用することは、重要だと思いますか
3. あなたは、長野市の歴史や文化を活用することで、どのような効果や影響があると思いますか
4. 長野市の歴史や文化を保存・活用する上で、あなたが、協力できそうなことは何ですか
5. 長野市の歴史や文化の活用方法として、実施したほうが良いと思うことは何ですか

アンケート結果は次の通りである。

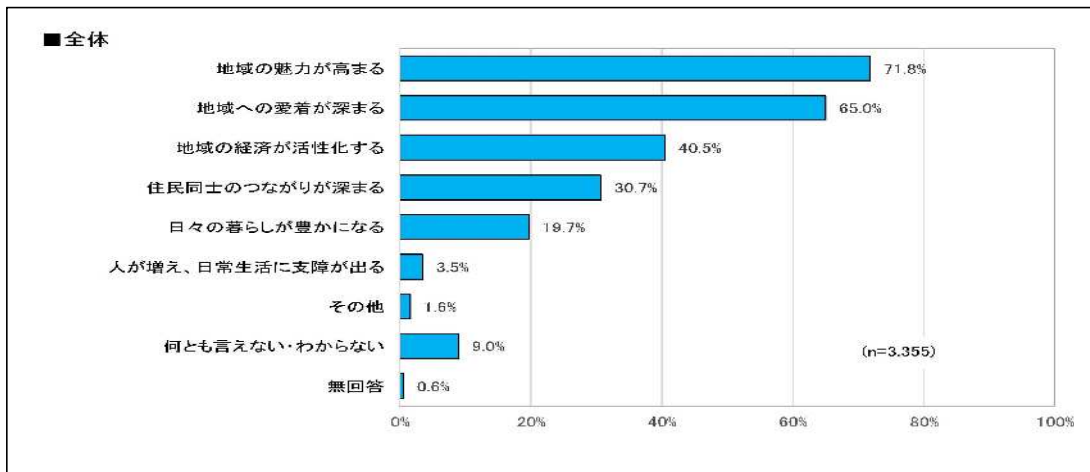
1. 長野市の歴史や文化について関心があるか聞いたところ、関心がある人は回答者の3人に2人の割合にのぼった。ただ年代別に見ると 20 歳代では半数近くが「関心がない」と回答した。



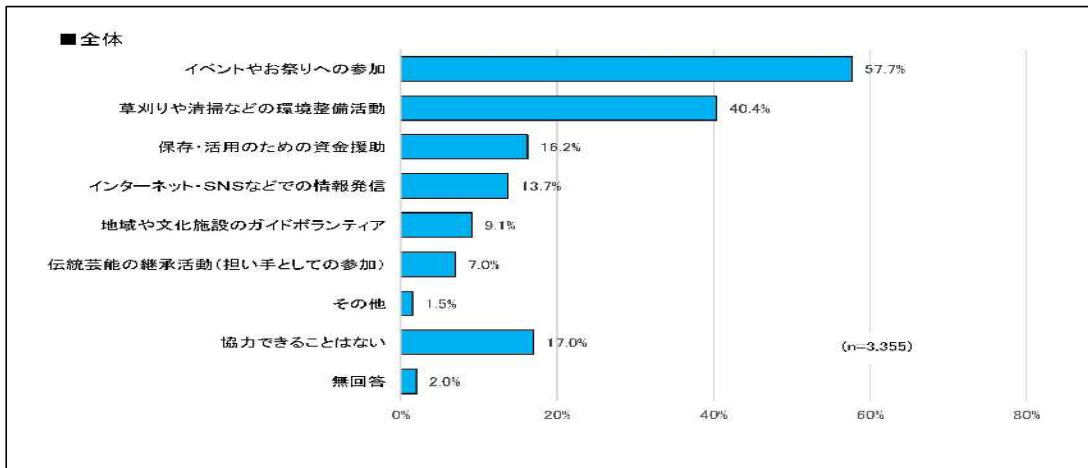
2. 長野市の歴史や文化を保存・活用することが重要であるか聞いたところ、重要であると思っている人は 85.4%と大半を占めた。



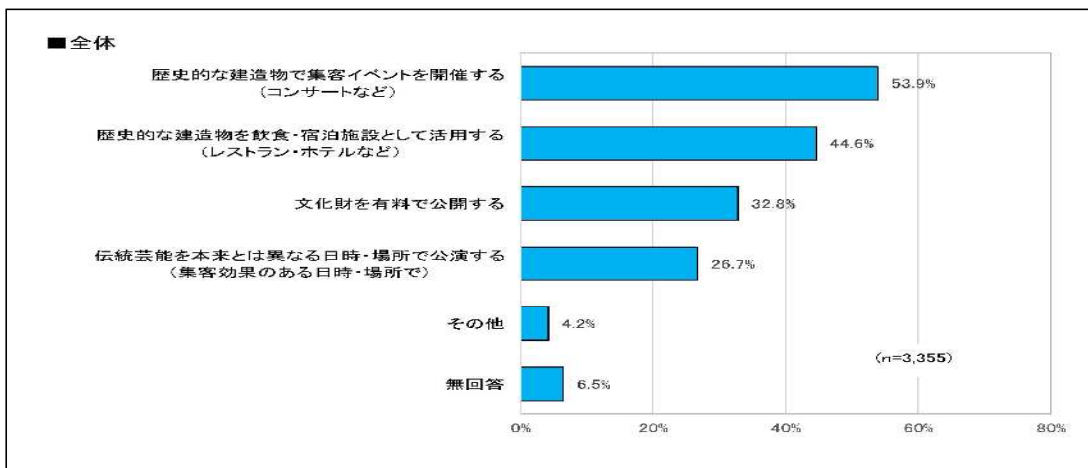
3. 長野市の歴史や文化を活用することで、どのような効果や影響があるか、三つ以内で挙げてもらったところ以下のような順になった。



4. 長野市の歴史や文化を保存・活用する上で協力できそうなことは何か、複数回答で聞いたところ、以下のような順になった。年代別では、10歳代で「イベントやお祭りへの参加」が高く、10歳代から30歳代の若年層では「インターネット・SNSなどでの情報発信」が高い傾向が見られた。



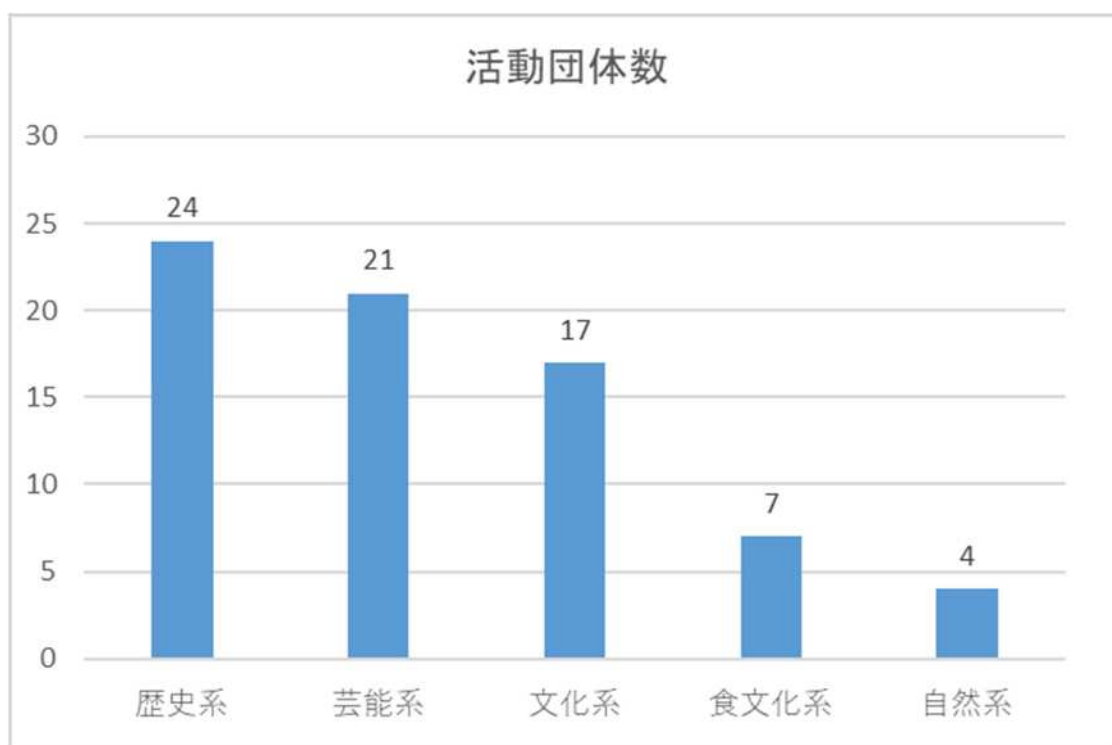
5. 長野市の歴史や文化の活用方法として、実施した方が良いと思うことは何か、二つ以内の複数回答で聞いたところ以下のような順となった。



全般的に長野市の歴史文化に関心があり、その保存・活用が重要であると考えている人が大半にのぼること、そのなかで歴史文化を活用することが地域の活性化につながると考えている人が多いことが分かった。また回答者の半数が歴史文化の保存・活用にあたって何らかの形で協力ができると考えていることが分かった。

## イ 市立公民館・交流センターアンケート調査

地域計画作成後の文化財保存活用にあたって、様々な場面で連携が想定される文化財に関わる活動団体の把握のため、市立公民館・市交流センター29館にアンケートを実施し、各館で把握している活動団体の名称と人数についての情報提供を依頼した。その結果、古文書解読や史跡調査等を行っている歴史系の団体が24、甚句や太鼓などを実演している芸能系の団体が21、俳句や美術系の活動を行っている文化系団体が17、郷土料理の保存活動をしている食文化系の団体が7、天然記念物の保護活動や山城のトレッキングコース整備等の活動を行っている自然系の団体が4の合計77団体を把握することができた。



### 3 長野市の文化財の概要

#### (1)文化財保護法等による指定等文化財

市域に所在する文化財のうち、文化財保護法及び長野県文化財保護条例、長野市文化財保護条例に基づき、指定・選択・選定・登録を受けている文化財は、令和6年1月1日時点で 542 件を数える。このほかに重要美術品が6件ある。

| 類型      |            | 国指定・選定 | 国選択 | 県指定     | 市指定等、( ) は名勝・天然記念物 | 市選択 | 国登録 | 県登録 | 市登録 | 合計    |    |
|---------|------------|--------|-----|---------|--------------------|-----|-----|-----|-----|-------|----|
| 有形文化財   | 建造物        | 8      |     | 11      | 65                 |     | 136 | 0   | 0   | 220   |    |
|         | 美術工芸品      | 絵画     | 2   |         | 2                  | 8   |     | 0   | 0   | 0     | 12 |
|         |            | 彫刻     | 15  |         | 8                  | 27  |     | 0   | 0   | 0     | 50 |
|         |            | 工芸品    | 3   |         | 7                  | 15  |     | 0   | 0   | 0     | 25 |
|         |            | 書跡・典籍  | 2   |         | 2                  | 2   |     | 0   | 0   | 0     | 6  |
|         |            | 古文書    | 0   |         | 0                  | 10  |     | 0   | 0   | 0     | 10 |
|         |            | 考古資料   | 0   |         | 1                  | 12  |     | 0   | 0   | 0     | 13 |
|         |            | 歴史資料   | 1   |         | 0                  | 3   |     | 0   | 0   | 0     | 4  |
| 無形文化財   | 0          | 0      | 0   | 7       | 0                  | 0   | 0   | 0   | 7   |       |    |
| 民俗文化    | 有形の民俗文化財   | 0      |     | 1       | 14                 |     | 0   | 0   | 0   | 15    |    |
|         | 無形の民俗文化財   | 0      | 1   | 4       | 9                  | 8   | 0   | 0   | 0   | 22    |    |
| 記念物     | 遺跡         | 6      |     | 5       | 46                 |     | 0   | 0   | 0   | 57    |    |
|         | 名勝地        | 0      |     | 1       | 4 (1)              |     | 8   | 0   | 0   | 13(1) |    |
|         | 動物、植物、地質鉱物 | 1      |     | 16      | 69                 |     | 0   | 0   | 0   | 86    |    |
| 文化的景観   | 0          | 0      | 0   | 0       | 0                  | 0   | 0   | 0   | 0   |       |    |
| 伝統的建造物群 | 1          | 0      | 0   | 0       | 0                  | 0   | 0   | 0   | 1   |       |    |
| 合計      | 39         | 1      | 58  | 291 (1) | 8                  | 144 | 0   | 0   | 541 |       |    |

| その他      | 国 | 県 | 市 |
|----------|---|---|---|
| 文化財の保存技術 | 0 | 0 | 1 |
| 重要美術品    | 6 |   |   |

合計548件

※埋蔵文化財包蔵地 1,112件

令和5年4月1日現在

## ア 有形文化財（建造物）

指定されている建造物の地区別分布は右図のようになる。松代地区、鬼無里地区、第一地区から第五地区に多い。

国宝は1件で第二地区の善光寺本堂が指定されている。重要文化財は7件。このうち第二地区の善光寺三門と善光寺経蔵は善光寺本堂と同じ境内に建つ江戸時代中期の建物である。松代地区の真田信之霊屋と真田信重霊屋は松代真田家初代藩主とその三男の位牌を祀った建物で、旧横田家住宅は松代藩士の武家屋敷である。このほか鬼無里地区の白髯神社本殿と芋井地区の葛山落合神社本殿が重要文化財となっている。

県宝は11件のうち7件が松代地区に集中している。このうち皆神山の熊野出速雄神社本殿は中世の熊野系修験を伝える貴重な建築遺構である。また大英寺本堂は真田信之夫人小松姫の霊屋、林正寺本堂は真田家二代藩主信政の霊屋、長国寺開山堂は真田家三代藩主幸道の霊屋を利用したものであり、長国寺境内の四代藩主真田信弘霊屋と合わせ真田家の霊屋群が指定されている。このほか旧前島家住宅は現存する松代藩武家屋敷のなかで最も古い年代に属する建物であり、開善寺経蔵は真田家の祈願寺の建物である。次に数が多いのが芋井地区の3件だが、うち明治8(1875)年に建てられた旧長野県師範学校教師館と、明治37(1908)年に建てられた旧ダニエル・ノルマン邸はもと第四地区にあったものを、昭和46(1971)年に芋井地区に移設したものである。残る1件の葛山落合神社境内諏訪社社殿は室町時代後期に建てられた神社建築物として指定されている。戸隠地区にある南方神社本殿も室町時代後期の建造物として県宝に指定されている。

市指定は65件で、このうち最古のものは篠ノ井地区にある平安時代の石造多層塔



国宝 善光寺本堂



重文 真田信之霊屋



で、次いで松代地区の石幢（笠仏）が鎌倉時代のものとされる。また南北朝から室町時代にかけて造立された石造宝篋印塔が3件（若穂川田、七二会、第二地区）指定されている。

木造では江戸時代以前の建造物として、浅川地区の諏訪神社本殿が様式から室町時代頃のものとしてされる。

江戸時代のものとしては、社寺（古牧地区守田のじんじゃほんでんのしんじやほんでん、鬼無里地区しょうがんじきょうどうの観音堂・鎮守堂など）、武家住宅の表門（松代地区旧白井家表門など）、鐘楼（旧松代藩鐘楼など）、武家住宅（松代地区旧樋口家住宅）、霊屋（松代地区だいほうじの大鋒寺真田信之霊屋）、石造物（吉田地区の中越のこうしんどうの庚申塔など）など、明治以降のものでは神社建築（鬼無里地区のあらくらやまじんじやほんでんの大岡地区のしおがまじんじやの塩竈神社など）が多くを占め、そのほかに学校建築（更北地区のさくしんがっこうの旧作新学校本館）と商家（松代地区のかねぼこけの旧金箱家住宅）が指定されている。

国の登録有形文化財 136 件は江戸時代後半から明治時代のものが大部分を占める。地区では松代地区に 81 件（寺社、店舗、個人住宅など）、第一から第五地区に 19 件（旅館、店舗など）と、この両地区に集中している。



市指定 石造多層塔



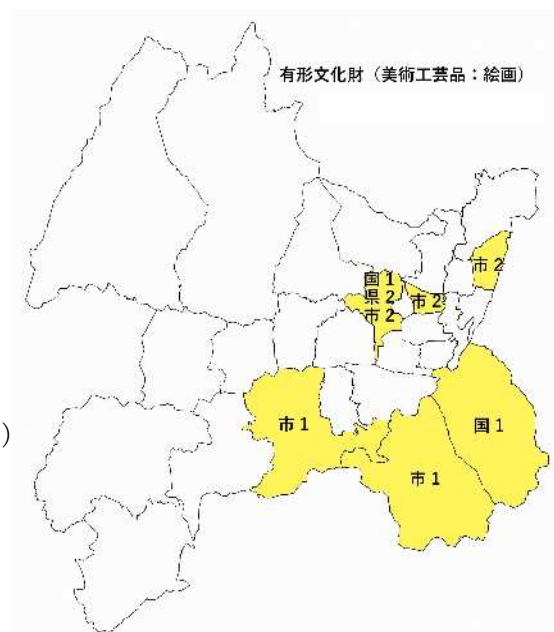
市指定 旧作新学校本館

## イ 有形文化財（美術工芸品）

美術工芸品は国指定では重要文化財が 23 件、重要美術品が 6 件、県宝が 20 件、市指定が 77 件となっている。

【絵画】重要文化財が 2 件、県宝が 2 件、市指定が 8 件で、地区別分布は右図になる。

重要文化財では第二地区善光寺大本願所蔵の絹本著色阿弥陀聖衆来迎図（鎌倉末～室町初期）が県下に伝存する浄土教来迎図の中では最古のものである。また、若穂地区清水寺の絹本著色両界曼荼羅図（鎌倉時代）が県下における曼荼羅の最佳品として指定されている。



県宝では、善光寺大勧進が所蔵する絹本著色釈迦三尊像が県内では遺例が少ない鎌倉時代に遡る仏画である。また、善光寺淵之坊に室町時代制作とされる絹本著色善光寺如来絵伝3幅は、数少ない中世の善光寺如来に関わる絵伝であるとともに、絵解き図として実際に善光寺信仰流布に利用されていたことがうかがえる貴重な文化財である。

市指定では、絵解きに利用されたとみられる長沼地区西巖寺の絹本著色鬼女紅葉狩の図（江戸時代）と蓮如上人絵伝4幅（江戸時代）や、吉田地区善敬寺の絹本著色親鸞聖人絵伝4幅（江戸時代）など8件を数える。

【彫刻】重要文化財が15件、県宝が8件、市指定が27件で地区別分布は次頁の図になる。

重要文化財のうち若槻地区の銅造観音菩薩立像は白鳳時代のもので市内の仏像の中で最も古いものである。若穂地区の清水寺にある木造聖観音立像ほか4件6軀の木造仏は、清水寺が大正5（1916）年の火事で焼失した後、再建時に奈良県から迎えた仏像で、いずれも平安時代から鎌倉時代初頭の作である。このほか、松代地区清水寺の木造千手観音菩薩立像ほか2軀、七二会地区の木造観音立像、信更地区観音寺の木造十一面観音立像が平安時代の木造仏である。また善光寺の金銅阿弥陀如来及両脇侍立像3軀は、江戸時代に江戸、京都、大坂をはじめ全国に出開帳をした際の開帳仏であり、現在も善光寺御開帳の際には前立本尊として公開されている。

県宝では、中条地区正法寺の木造聖観音菩薩立像ほか2軀、安茂里地区正覚院の木造伝観音菩薩立像など平安時代から鎌倉時代にかけての仏像8件（12軀）が市内に所在している。

市指定では、平安時代の作で川中島地区唯一の指定文化財である切勝寺の聖観音菩薩立像や、同じく平安時代の作である第二地区世尊院の木造毘沙門天像のほか、明治初頭の廃仏毀釈によって戸隠山奥院の仁王堂から寛慶寺（第二地区）に移され



県宝 善光寺如来絵伝



重文 銅造観音菩薩立像

た木造金剛力士像などがある。

【工芸品】重要文化財が3件、県宝が7件、市指定が15件となる。

重要文化財としては奈良時代から平安時代初期のものとされる戸隠神社の牙笏、平安時代のものとされる若穂地区清水寺の鉄鍬形（長野市立博物館寄託）などがある。

県宝となっている松代地区玉依比売命神社所蔵の児玉石は、毎年1月7日に神社で行われる児玉石神事の際に用いられる。神事では神社所蔵の玉石類の数を数え上げ、その増減で年の吉凶を占うが、この玉石類のうち591顆が指定されている。

市指定のうち鬼無里地区にある4基の山車と2基の神楽は、現在の新潟県糸魚川市市振出身の宮大工北村喜代松によって幕末から明治時代初期にかけて製作されたもので、いずれにも精緻な彫刻が施されている。

【書跡・典籍】重要文化財2件、県宝2件、市指定2件を数える。このうち重要文化財の紙本墨書法華経残闕（平安時代末期－鎌倉時代）、県宝の戸隠山顕光寺流記（室町時代）はいずれも戸隠神社所蔵のもので、古くから戸隠山が信仰対象の山であったことを示す文化財である。

県宝ではほかに松代地区真田宝物館所蔵の真田家文書が真田家初代幸綱（幸隆）以来真田家に代々伝来した文書として指定されている。市指定には同じく真田宝物館所蔵の佐久間象山筆桜の賦と豊野地区鷲寺諏訪神社所蔵の鷲寺諏訪社奉納俳額（長野市立博物館寄託）がある。

【古文書】古文書は市指定のみで10件を数える。更北地区に残る豊臣秀吉による太閤検地の検地帳（文禄四年中氷飽村下氷飽村御検地帳）などがある。

【考古資料】県宝1件、市指定12件を数える。県宝の伝川柳将軍塚古墳出土品は、篠ノ井地区の川柳将軍塚古墳から江戸時代に発掘された鏡・勾玉・管玉などで、篠ノ井地区上石川の布制神社に伝わったものである（長野市立博物館寄託）。市指定では川柳将軍塚古墳の陪塚から発見された埴輪田筒棺や、豊野地区の南曾峯古墳から

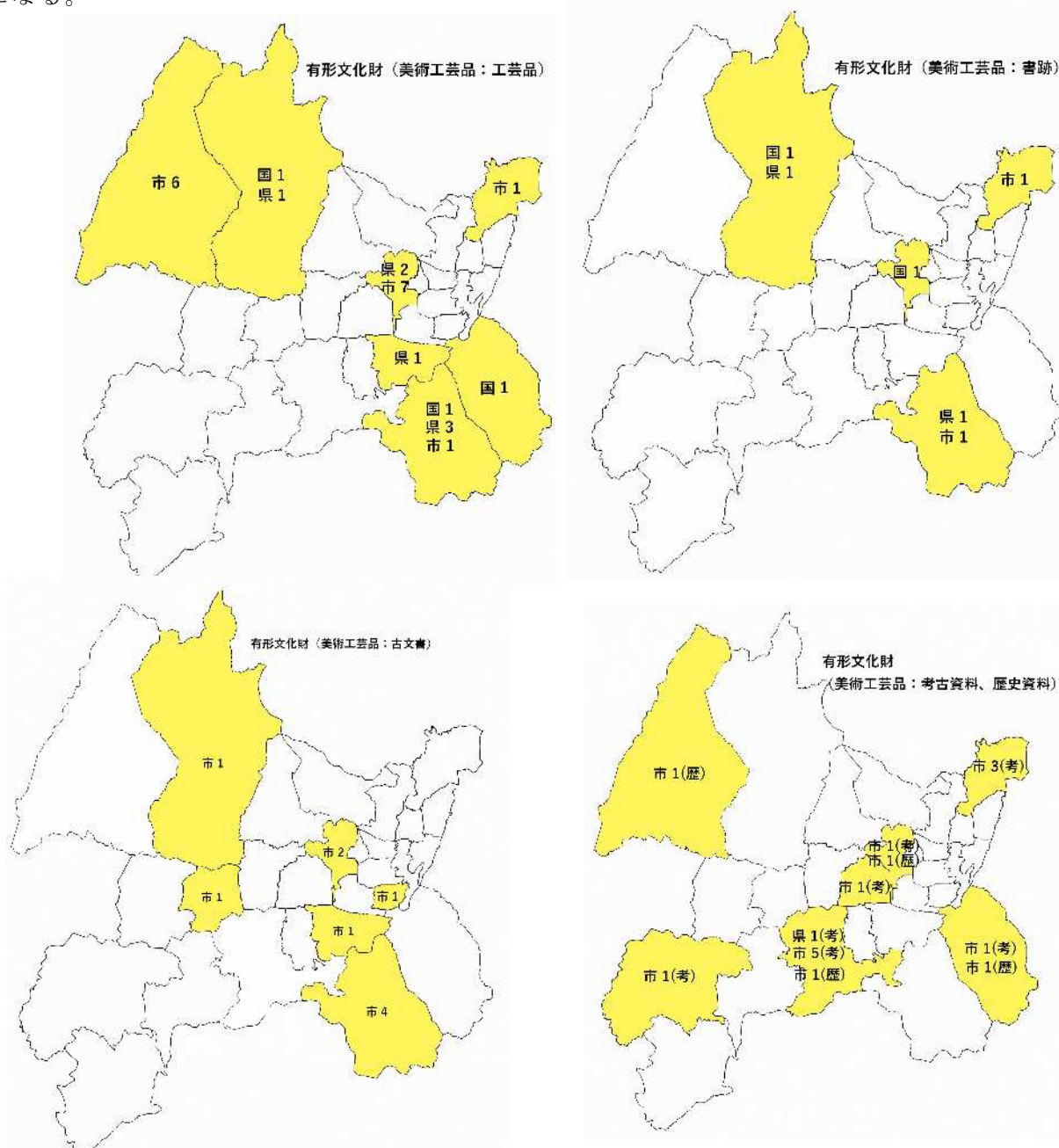


重文 鉄鍬形

出土した直刀<sup>ちよくとう</sup>などがある。

【歴史資料】重要文化財1件と市指定3件を数える。重要文化財の善光寺造営図は、室町時代<sup>きょうろく</sup>享祿4(1531)年の善光寺再建にかかわる門その他付属建物の設計図であり、作図年代がわかる設計図としては現存最古のものである。市指定には鬼無里地区<sup>しょうがんじ</sup>の松巖寺観音堂算額や篠ノ井地区<sup>うたがひ</sup>の高札板などがある。

なお、美術工芸品のうち絵画・彫刻以外の指定文化財の地区別分布は下図のようになる。



## ウ 無形文化財

無形文化財は市の指定7件を数える。

このうち善光寺木遣り<sup>ぜんこうじきや</sup>は、江戸時代の善光寺再建の際に、江戸棟梁<sup>とうりょう</sup>によって伝えられたものとされ、現在でも建築行事等で唄い継がれている。また八橋流<sup>やっはしりゅう</sup>箏曲は江戸時代初期に八橋検校<sup>やっはしけんぎょう</sup>が創始した琴の流派で、八橋検校に直接学んだ真田家2代藩主側室のお伏<sup>おふせ</sup>によって松代に伝えられたものである。このほか松代地区<sup>おおのもんおど</sup>の大門踊りや戸隠地区<sup>せんとくおど</sup>の宣澄踊りなどが指定されている。



## エ 民俗文化財

【有形の民俗文化財】県宝1件、市指定14件を数える。

県指定の小正月関係資料コレクションは、市内外の小正月行事で用いられる道具を長野市立博物館が収集したものである。

市指定には真田宝物館が所蔵する江戸時代の松代焼コレクションや第四地区の妻科<sup>つましな</sup>と吉田地区の中越に残る庚申講人別帳及び用具一式（長野市立博物館寄託）、善光寺の祇園祭<sup>えいこう</sup>で曳航されていた第一地区西町上組<sup>かみぐみ</sup>の山車（長野市立博物館寄託）、善光寺の正月行事用具などがある。善光寺の正月行事用具は、善光寺で年末年始にかけて行われる堂童子行事<sup>どうどうじぎょうじ</sup>で使用される一連の道具である。



市指定 善光寺木遣り



市指定 山車

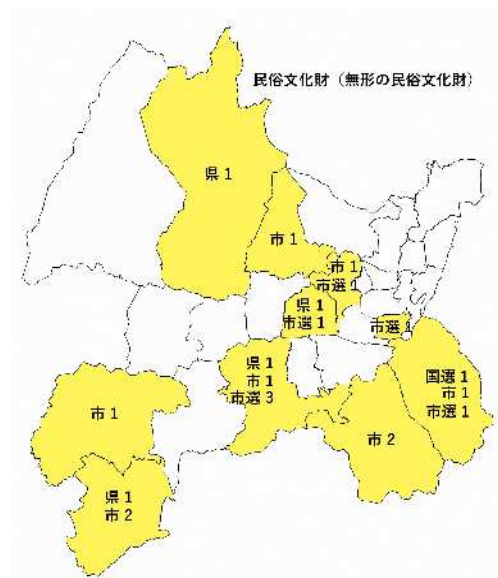


【無形の民俗文化財】国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（国選択）1件、県指定4件、市指定9件、市の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（市選択）8件の計22件を数える。

国選択の若穂地区高岡たかおかの小豆あずき焼きや行事ぎょうじは、正月15日集落の集会所で、囲炉裏の火で熱したカワラケに小豆を載せ、小豆の動きで年の吉凶を占う予祝行事で、道祖神信仰と関わって行われる。

県指定となっている大岡地区あしのじりの芦ノ尻あしのじりの道祖神祭りと、篠ノ井地区の長谷及はせおよび越こしのドンドヤキも道祖神信仰に基づく小正月行事である。県指定ではこのほか戸隠神社とがくしんじやだい太神楽たいかぐらと犀川神社さいがわじんじやの杜煙火もりほなびがある。犀川神社の杜煙火は、安茂里地区犀川神社の秋祭りの際に、境内で行われる壮大な仕掛け花火である。

市指定及び選択では、市内各所で行われる獅子神楽のうち、安茂里地区の犀川神社太神楽や若穂地区の赤野田神社太神楽など代表的なものが8件選ばれている。このほか年中行事として松代地区玉依比売命神社たまよりひめのみことじんじやの御田祭おんたさい・児玉石神事こだまいししんじ・御判神事ごはんしんじや、篠ノ井地区の東横田ひがしよこたと犬石いぬいしで行われる虫送り行事などがある。玉依比売命神社の行事は正月6日・7日にわたって行われる一連の予祝行事で、東横田と犬石の虫送りは7月末から8月初頭に行われる稲の害虫除けの呪い行事である。



国選択 高岡の小豆焼き行事



県指定 芦ノ尻の道祖神祭り

## オ 記念物

【遺跡】国指定6件、県指定5件、市指定46件を数える。

国指定の史跡は、篠ノ井地区にある川柳将軍塚古墳ひめづかこふん、姫塚古墳（古墳時代前期）1件、松代地区の埴科古墳群はにしなこふんぐん土口将軍塚古墳どぐちしやうぐんづかこふん（古墳時代中期）1件、松代地区大室古墳群おおむろこふんぐん（古墳時代中期から後期）1件などの古墳のほか、松代地区にある松代城跡まつしろじやうあと

つけたりしんごてんあと 附 新御殿跡、松代藩主真田家墓所、旧文武学校といった松代藩ゆかりの史跡3件である。

県指定のうち、松代地区にある菅間王塚古墳と桑根井空塚の2件は合掌形石室を有する古墳、戸隠地区の戸隠神社奥社・中社・宝光社からなる戸隠神社信仰遺跡は戸隠山の信仰の歴史を伝える場所として指定されている。このほか戦国時代に武田信玄が馬場信房に築かせた信州新町地区の牧之島城跡や、松代地区に残る佐久間象山宅跡が県指定になっている。

市指定は、縄文時代の集落遺跡である中条地区の宮遺跡、古墳時代の祭祀遺跡である古里地区の駒沢祭祀遺跡のほか、古墳（篠ノ井地区の中郷神社前方後円墳、松代地区の竹原笹塚古墳など）、山城（豊野地区の大倉城跡、芋井地区の葛山城跡など）、宗教施設跡（豊野地区の神護寺跡、戸隠地区の奈良尾弘法遺跡など）、善光寺参道（敷石）などがある。

【名勝地】県指定が1件、市指定が4件（うち1件は名勝・天然記念物）、国登録が8件となっている。

県指定は鬼無里地区の奥裾花峡谷で、市指定は信州新町地区の久米路峡など3件に加え、名勝と天然記念物を包括した大岡地区樋知大神社境内のお種池及び社叢と湿性植物群落がある。



市指定 樋知大神社境内のお種池及び社叢と湿性植物群落



国史跡 松代城跡附新御殿跡



国の登録記念物は8件で、全て松代地区の泉水路<sup>せんすいり</sup>を構成する武家住宅などの庭園（旧山寺常山氏庭園<sup>やまでらじょうざんしえていえん</sup>など）である。

【動物・植物・地質鉱物】国指定1件、県指定16件、市指定が69件を数える。

国指定は、芋井地区の素桜神社<sup>すざくらじんじや</sup>の神代ザクラ。県指定は樹木（戸隠神社奥社社叢<sup>じんだい</sup>など）のほか、市域の大地の形成を物語る化石類（戸隠川下のシンシュウゾウ化石、信州新町地区菅沼<sup>すがぬま</sup>の絶滅セイウチ化石など）や、地質標本（若穂地区大柳<sup>おおやなぎ</sup>及び井上<sup>まくら</sup>の枕状溶岩<sup>じょうようがん</sup>、鬼無里地区深谷沢<sup>ふかやさわ</sup>の蜂の巣状風岩<sup>はちまなま</sup>）などがある。

市指定には、戸隠地区のカワシンジュガイ、松代地区皆神山のクロサンショウウオの産卵池、明徳寺<sup>めいとくじ</sup>のヒキガエル産卵池といった動物、芋井地区の葛山落合神社社叢、吉田地区の吉田のイチョウ、戸隠地区戸隠中社の三本杉などの樹木、鬼無里地区奥裾花のケスタ地形、漣痕<sup>れんこん</sup>（リップルマーク）といった地質関係のものなどがある。

## カ 伝統的建造物群

戸隠地区の中社及び宝光社地区には、戸隠信仰のもとに多くの参詣者を受け入れるために大規模化した宿坊や、門前町を形成した民家などの伝統的建造物が江戸時代以前からの町割りのもとに群として残されており、長野市戸隠伝統的建造物群保存地区（国選定重要伝統的建造物群保存地区）として歴史的町並みの保護を図っている。

## キ 文化財の保存技術

市選定保存技術になっている桐原牧神社<sup>きりはらまきじんじや</sup>の藁馬づくりは、吉田地区桐原牧神社で春祭りの際に奉納・頒布される藁馬の製作技



国天然記念物 素桜神社の神代ザクラ



長野市戸隠伝統的建造物群保存地区



術で、現在も地元の保存会が記録の作成や  
伝承者の育成などを行い、技術の保存に努  
めている。

#### ク その他（重要美術品）

重要美術品は絵画2件、彫刻1件、工芸品  
2件、書跡1件の計6件を数える。善光寺の  
境内にあり、ぬれ仏の名で親しまれている  
銅造地蔵菩薩坐像や、同じく善光寺境内に  
建つ鐘楼の銅鐘、北野美術館（若穂地区）  
所蔵の圓山應舉筆絹本著色中壽老左右鴛鴦  
図などがある。



市選定 桐原牧神社の藁馬

#### ケ 埋蔵文化財

市域の埋蔵文化財包蔵地1,112か所を地区別にまとめたのが下表になる。

周知の埋蔵文化財包蔵地件数一覧

|                | 古墳  | 城館跡 | 集落跡 | 生産地 | 墳墓 | 社寺跡 | 祭祀跡 | 散布地 | その他 | 計    |
|----------------|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|------|
| 第一             | 1   | 1   | 3   |     |    |     |     |     |     | 5    |
| 第二             | 21  | 3   | 5   |     |    | 1   |     | 1   |     | 31   |
| 第三・第四          |     |     | 1   |     |    |     |     |     |     | 1    |
| 第四             |     | 1   | 1   |     |    |     |     | 1   |     | 3    |
| 第一・第二・第三・第四    |     |     | 1   |     |    |     |     |     |     | 1    |
| 芹田             |     | 6   | 5   |     |    |     |     | 2   |     | 13   |
| 占牧             | 1   | 5   | 4   |     |    |     |     | 3   |     | 13   |
| 占牧・芹田          |     |     |     |     |    |     |     | 1   |     | 1    |
| 三輪             |     | 2   | 6   |     |    |     |     | 3   |     | 11   |
| 古山             |     | 6   | 12  |     |    |     |     | 4   |     | 22   |
| 古平             | 3   | 1   | 4   |     |    |     | 1   | 5   | 1   | 15   |
| 桐原             |     | 2   | 4   |     |    |     |     | 3   |     | 9    |
| 浅川             | 7   | 3   | 4   |     |    |     |     | 14  |     | 28   |
| 朝陽             |     | 2   | 3   |     |    |     |     | 1   |     | 6    |
| 桐原・朝陽          |     |     |     |     |    |     |     | 1   |     | 1    |
| 若槻             | 12  | 8   | 18  | 3   |    |     |     | 29  | 1   | 71   |
| 浅川・若槻・吉田・三輪・第二 |     |     |     |     |    |     |     | 1   |     | 1    |
| 長沼             |     | 3   |     |     |    |     |     |     |     | 3    |
| 安茂埜            | 34  | 9   | 3   |     | 1  |     |     | 10  |     | 57   |
| 小口切            | 2   | 5   |     |     |    |     |     | 8   |     | 15   |
| 芋井             |     | 4   |     | 1   |    |     | 1   | 16  |     | 22   |
| 篠ノ井            | 56  | 21  | 19  | 2   |    | 1   |     | 28  |     | 127  |
| 松代             | 98  | 16  | 8   | 5   | 2  | 1   | 1   | 25  |     | 156  |
| 若穂             | 66  | 12  | 9   | 1   | 1  |     |     | 30  |     | 119  |
| 川中島            |     | 4   |     |     | 1  |     |     | 3   |     | 8    |
| 更北             |     | 4   | 3   |     |    |     |     | 3   |     | 10   |
| 更北・川中島         |     |     | 1   |     |    |     |     |     |     | 1    |
| 七二会            |     | 9   | 1   |     |    |     |     | 11  |     | 21   |
| 信史             | 14  | 8   | 1   | 9   |    |     |     | 38  |     | 70   |
| 豊野             | 30  | 4   | 4   | 6   | 6  | 6   |     | 48  | 1   | 105  |
| 戸隠             |     | 17  |     |     |    | 2   | 1   | 20  | 1   | 41   |
| 岩無里            |     | 1   |     |     |    |     |     | 14  | 1   | 16   |
| 大岡             | 1   | 2   | 1   |     |    |     |     | 19  |     | 23   |
| 信州新町           | 3   | 16  | 6   |     | 3  |     |     | 33  |     | 61   |
| 中条             |     | 3   | 1   |     | 3  |     |     | 18  |     | 25   |
| 計              | 349 | 178 | 128 | 27  | 17 | 11  | 4   | 393 | 5   | 1112 |

地区別に見ると、包蔵地数が 100 件以上のところが松代・篠ノ井・若穂・豊野地区で、これらの地区は、多くの指定文化財が所在する地区でもある。また、遺跡の種類別にみると古墳が群を抜いて多く、以下、城館跡、集落跡と続く。

## (2) 未指定文化財

### ア 文化財保護法以外の法律等で指定されている文化財

未指定文化財のなかには以下のように、文化財保護法や文化財保護条例以外の法令等により保存の対象とされているものもある。

#### 【歴史的風致形成建造物】

長野市歴史的風致維持向上計画で定められた重点区域における歴史的風致の維持及び向上を図る上で重要な建造物として指定されているもの。指定された 7 件のうち第 3 号から第 6 号までは、平成 26 (2014) 年に重要伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物群を構成する建造物になったため、平成 29 (2017) 年に指定解除になっている。現在の 3 件はいずれも、文化財保護法及び文化財保護条例により指定・登録されている。

| 番号    | 名称       | 所在地   | 所有者 | 備考        |
|-------|----------|-------|-----|-----------|
| 第 1 号 | 大英寺本堂・表門 | 松代地区  | 大英寺 | 県宝        |
| 第 2 号 | 松巖寺観音堂   | 鬼無里地区 | 松巖寺 | 市指定有形文化財  |
| 第 3 号 | 宿坊神原主屋   | 戸隠地区  | 個人  | H29 年指定解除 |
| 第 4 号 | 武井旅館主屋   | 戸隠地区  | 個人  | H29 年指定解除 |
| 第 5 号 | 横倉旅館主屋・門 | 戸隠地区  | 個人  | H29 年指定解除 |
| 第 6 号 | 久山館石垣    | 戸隠地区  | 個人  | H29 年指定解除 |
| 第 7 号 | 常德院 門    | 第二地区  | 個人  | 国登録有形文化財  |

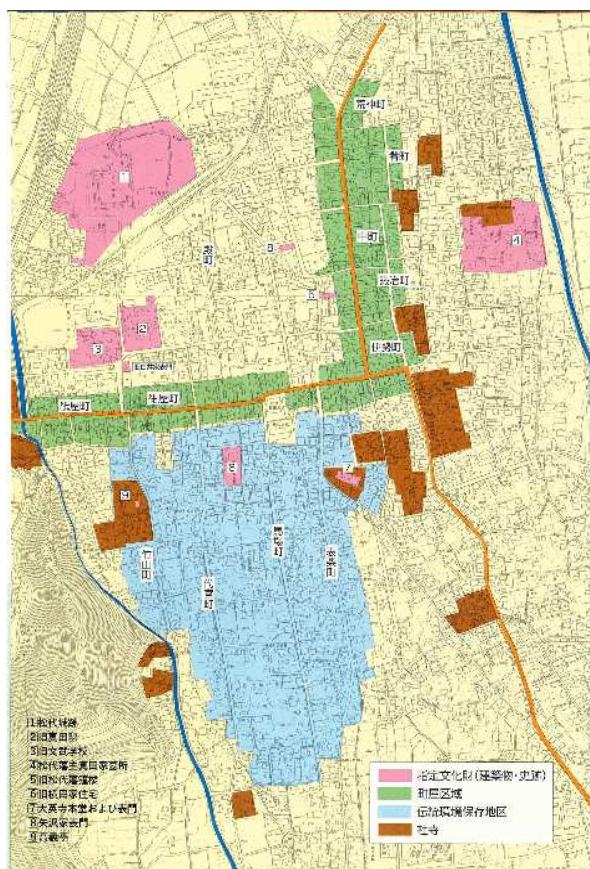
#### 【景観重要建造物】

特色のある景観形成を特に推進する地区の景観形成上、維持・保全する価値があり、その地域のシンボリックな景観を生み出している建造物として、景観法に基づき、長野市景観審議会の審議を経て指定されているもの。長野市には 7 件の建造物が指定されている。

|   | 名称     | 所在地  | 備考       |
|---|--------|------|----------|
| 1 | 藤屋旅館   | 第二地区 | 国登録有形文化財 |
| 2 | 中澤時計本店 | 第二地区 | 国登録有形文化財 |
| 3 | 八田邸    | 松代地区 | 国登録有形文化財 |
| 4 | 西澤邸    | 若穂地区 |          |
| 5 | 北村邸    | 若穂地区 | 国登録有形文化財 |
| 6 | 宿坊極意   | 戸隠地区 | 国登録有形文化財 |
| 7 | 越志旅館   | 戸隠地区 | 国登録有形文化財 |

## 【長野市伝統環境保存区域内における伝統環境を構成している建造物等及びこれと一体をなす環境を保存するために特に必要と思われる物件】

長野市伝統環境保存条例（以下、伝統環境保存条例）に基づき定められた長野市伝統環境保存計画により設定された保存区域内で伝統環境を構成している建造物、庭園、水路。長野市松代地区の表柴町・代官町・馬場町・竹山町が保存区域に設定されており、その区域内の江戸時代から明治時代に建てられた建造物、庭園、及び水路が指定を受けている。



伝統環境保存区域の範囲

## 【伝統的工芸品】

日常生活の中で古くから使われてきた品で、今もなお伝統的な原材料を使い、伝統的な技術・技法により手工業的に製造されている工芸品であり、国（経済産業大臣）指定と長野県（知事）指定の二種類がある。市内では信州竹細工、松代焼、信州手描友禅、信州組子細工の4件が長野県の指定を受けている。

このうち信州竹細工として山ノ内町の須賀川、伊那市美篁とともに指定を受けている戸隠の竹細工は、戸隠の山野に自生するチシマザサ（通称根曲がり竹）を材料に作られるもので、その起源は不明ながら、山ノ内町の須賀川に、慶安年間(1648 - 1652)頃戸隠から須賀川に移住してきた徳武某ら3人によって竹細工が伝えられたとの記録が残されていることから、少なくともそれ以前から戸隠で作られていたことは確かである。根曲がり竹は茎が細くしなやかなため、細かな細工がしやすく丈夫なのが特徴で、農作業の道具としての箕や籠はもとより、明治時代に入り養蚕が盛んになると蚕籠、現在では蕎麦ざるといったように、それぞれの時代の需要に合うように製品の形を変えながら作られ続けている。

## イ 既往調査等から抽出した未指定文化財

既往資料調査の中で、抽出した未指定の文化財数は4,087件となる。下に地区別種類別数を示した。

地区別種類別未指定文化財数

| 地区   | 有形文化財 |       |     |     |    |     |      |      |      |          | 無形文化財 | 民俗文化財    |     |     | 記念物 |    |      |      |      | 伝統的建造物群 | 地区別合計 |
|------|-------|-------|-----|-----|----|-----|------|------|------|----------|-------|----------|-----|-----|-----|----|------|------|------|---------|-------|
|      | 建造物   | 美術工芸品 |     |     |    |     |      |      |      | 有形の民俗文化財 |       | 無形の民俗文化財 | 遺跡  | 名勝地 | 植物  | 動物 | 地質鉱物 |      |      |         |       |
|      |       | 絵画    | 彫刻  | 工芸品 | 書跡 | 典籍  | 古文書  | 歴史資料 | 考古資料 |          |       |          |     |     |     |    |      | 風俗習慣 | 民俗芸能 |         |       |
| 第一   | 2     |       |     |     |    | 129 | 9    |      |      |          |       | 4        | 9   | 6   |     |    |      |      |      |         | 159   |
| 第二   | 9     | 28    | 2   | 2   |    | 196 | 1    | 1    |      |          |       | 9        | 8   | 5   | 1   |    |      |      |      |         | 262   |
| 第三   | 1     |       |     |     |    | 53  |      |      |      |          |       | 5        | 1   |     |     |    |      |      |      |         | 60    |
| 第四   | 5     |       | 2   |     |    | 37  | 4    |      |      |          |       | 2        | 1   | 1   |     |    |      |      |      |         | 52    |
| 第五   | 2     |       |     |     |    | 7   | 5    |      |      |          |       | 2        |     | 3   |     |    |      |      |      |         | 19    |
| 芹田   | 3     |       | 4   |     |    | 66  |      | 2    |      |          |       |          | 20  | 8   |     |    |      |      |      |         | 103   |
| 古牧   | 23    | 4     | 5   |     | 3  | 5   | 2    |      |      |          |       | 43       | 9   | 4   |     | 13 |      |      |      |         | 111   |
| 三輪   | 1     |       |     |     |    | 47  |      |      |      |          |       |          | 2   | 4   | 1   |    |      |      |      |         | 55    |
| 吉田   | 2     |       |     |     |    | 9   | 1    |      |      |          |       | 10       | 6   | 2   |     |    |      |      |      |         | 30    |
| 古里   | 22    |       |     |     |    | 15  |      |      |      |          |       | 7        | 7   | 6   |     |    |      |      |      |         | 57    |
| 柳原   |       |       |     |     |    | 17  |      |      |      |          |       |          | 5   | 4   |     |    |      |      |      |         | 26    |
| 浅川   |       |       |     |     |    | 7   |      |      |      |          |       |          | 18  | 7   | 2   |    |      |      | 1    |         | 35    |
| 大豆島  | 10    |       |     |     |    | 18  |      |      |      |          |       |          |     | 3   | 4   |    |      |      |      |         | 35    |
| 朝陽   | 1     |       |     |     |    | 18  | 1    |      |      |          |       |          | 9   | 8   |     |    |      |      |      |         | 37    |
| 若槻   | 61    |       | 13  |     |    | 27  | 3    |      |      |          |       |          |     | 9   | 16  |    |      |      |      |         | 129   |
| 長沼   | 26    | 1     | 2   |     | 2  | 24  |      |      |      |          |       |          | 3   | 7   | 6   | 2  | 3    |      |      |         | 78    |
| 安茂里  | 15    | 3     | 26  |     | 2  | 119 | 20   | 5    |      |          |       | 15       | 5   | 4   |     |    |      |      |      |         | 215   |
| 小田切  | 51    |       | 6   |     |    | 42  |      | 1    |      |          |       |          | 2   |     |     | 8  | 15   |      | 5    |         | 130   |
| 芋井   | 2     |       | 16  |     |    | 19  | 2    |      |      |          |       |          | 27  | 6   | 1   |    |      |      |      |         | 73    |
| 篠ノ井  | 44    |       | 5   |     | 1  | 114 | 21   | 6    |      |          |       |          | 20  | 28  |     |    |      |      |      |         | 239   |
| 松代   | 79    | 20    | 12  | 7   | 2  | 125 | 27   | 1    | 1    |          |       |          | 22  | 11  | 10  |    |      |      |      |         | 318   |
| 若穂   | 102   | 2     | 50  |     | 1  | 120 | 15   | 3    |      |          |       | 2        | 27  | 22  | 3   |    |      | 1    |      |         | 348   |
| 川中島  | 26    |       | 3   |     | 1  | 87  | 2    |      |      |          |       | 1        | 21  | 20  | 3   |    |      |      |      |         | 164   |
| 更北   | 44    | 7     | 5   |     |    | 149 | 1    | 1    |      |          |       |          | 19  | 14  | 5   |    | 1    |      |      |         | 246   |
| 七二会  | 17    |       | 2   |     |    | 111 |      |      |      |          |       |          | 4   | 9   | 1   |    |      |      |      |         | 144   |
| 信更   | 66    |       | 4   |     | 5  | 30  | 1    |      |      |          |       |          | 50  | 2   |     |    |      |      |      |         | 158   |
| 豊野   |       |       |     |     |    | 94  | 1    |      |      |          |       |          |     | 8   |     |    |      |      |      |         | 103   |
| 戸隠   | 28    |       | 7   |     |    |     |      | 4    |      |          |       |          | 6   | 21  |     |    |      |      |      |         | 66    |
| 鬼無里  | 4     | 3     | 6   |     |    | 107 | 5    |      |      |          |       |          | 1   | 10  | 4   |    |      |      |      |         | 140   |
| 大岡   | 37    |       | 1   |     | 1  | 85  | 4    |      |      |          |       |          | 2   | 4   | 1   |    |      |      |      |         | 135   |
| 信州新町 | 3     |       | 223 |     |    |     |      |      |      |          |       |          |     | 4   |     |    |      |      |      |         | 230   |
| 中条   | 1     | 1     | 122 |     |    |     |      |      |      |          |       |          |     | 6   |     |    |      |      |      |         | 130   |
| 計    | 687   | 69    | 516 | 12  | 14 | 5   | 1877 | 129  | 20   | 1        |       | 25       | 352 | 257 | 74  | 10 | 32   | 1    | 6    | 0       | 4087  |

## 【有形文化財（建造物）】

市域には、松代地区に松代城下町、第二地区に善光寺門前町、戸隠地区に戸隠神社の宿坊群といった、歴史的建造物が多く残されている町や、北国街道や松代道沿いの丹波島宿<sup>たんぱしまじゆく</sup>や善光寺宿、川田宿<sup>かわだじゆく</sup>、長沼宿<sup>かじろじゆく</sup>、神代宿などの旧宿場町に当時の面影を残す町並みが残されている。



麻煮の釜屋（信州新町）

町並みを形成する建物以外では、信州新町地区にある麻煮の釜屋<sup>おに かまや</sup>などは、かつて盛んだった麻生産の様子を伝える貴重な建造物といえる。

建造物のうち石造物については、昭和50年代に郷土を知る会によって平成合併前の旧長野市域の所在調査が実施され、平成に入り合併した豊野町、鬼無里村、戸隠村、中条村、信州新町については旧町村時代に悉皆調査が行われている。また大岡村については、合併後に長野市立博物館で悉皆調査を行った。

市域の石造物の中で特徴的なものに、徳本行者<sup>とくほんぎやうじや</sup>の六字名号塔がある。独特の書体で「南無阿弥陀仏」<sup>なむあみだぶつ</sup>と刻まれ、脇に「徳本」の名が刻まれた石碑のことだが、これは近世の念仏行者徳本(1758-1818)が念仏行の布教に用いた六字名号札を石碑に刻んだもので、その数は市域で96基にのぼる。そのほとんどが、徳本行者が念仏教化のために市域を訪れた文化13(1816)年の年号を刻んでおり、徳本行者の巡錫<sup>じゆんしやく</sup>がこの地に与えた影響の大きさを物語っている。



徳本名号塔（更北 法蔵寺）

## 【有形文化財（美術工芸品～絵画）】

第二地区善光寺大勧進には14世紀から15世紀の作とされる絹本著色文殊菩薩像<sup>けんぽんちやくしよくもんじゆぼさつぞう</sup>や五代力菩薩像<sup>ごだいりきぼさつぞう</sup>、日枝山王曼陀羅図<sup>ひえさんのうまんだらず</sup>など貴重な絵画資料が所蔵されている。このほか市域の社寺を中心に仏画等が多く残されていると想定されるが、悉皆調査等が行われていないため、現在のところその全容は不明である。

## 【有形文化財（美術工芸品～彫刻）】

市域には古社寺が多く存在し、そこに祀られている神仏像にも古いものがみられるが、昭和9(1934)年に更埴教育会こうしよくきょういっかいの主催で日本美術史家の源豊宗みなもととよむねを招いて実施した仏像調査以降、市域全体を対象とした調査が行われていないため、その全容は把握できていない。また、



長谷川政七作 弘法大師（鬼無里）

時代は下るが、近世に第四地区の新田町近辺で善光寺仏師を名乗り活動していた、長谷川姓の仏師の手による仏像が各所に残されている。このほか、鬼無里・中条地区にまたがる虫倉山を拠点に山岳修行をしていた木食聖もくじきひじりの一派が修行の一環として作った仏像が、虫倉山周辺地域の社寺や家庭に残されている。これらは、木片などから作られた素朴な仏像で、主な製作者であった木食山居もくじきさんきよの名前から山居仏さんきよぶつと呼ばれ親しまれている。

## 【有形文化財（美術工芸品～工芸品）】

松代地区にその数が多いのは、松代藩主真田家の大名道具を所蔵する真田宝物館があるため、能装束や蹴鞠道具といった文化財が残されている。善光寺のある第二地区には大勧進に刺繍阿弥陀三尊来迎図(16世紀)が所蔵されている。繡仏の阿弥陀来迎図は、鎌倉～室町時代頃に庶民の間に広がった浄土信仰の隆盛に合わせて多くつくられたが、現存するものは少なく、県内では唯一のものである。

## 【有形文化財（美術工芸品～書跡・典籍）】

書跡としては佐久間象山筆の蚊里田八幡宮幟旗、勝海舟筆の南高田伊勢神社幟旗、化政期に活躍した小布施町出身の文化人、高井鴻山筆の川中島養蚕神社幟旗など著名人が揮毫した幟旗が市域各神社に残されている。



蚊里田八幡宮七反幟

典籍としては、親鸞聖人絵伝や鬼女紅葉狩の図（いずれも市指定文化財）も所蔵する長沼地区の西巖寺に、源氏物語五十四帖や一条兼良書住吉物語が

残されている。また、古牧地区の光蓮寺には、永享11(1439)年に当時の住職が京都本願寺に参詣した際に授かった蓮如上人御染筆の奥書のある聖教が残されている。

## 【有形文化財（美術工芸品～古文書）】

古文書は過去の『長野県史』や『長野市誌』、また市域の旧町村史等の文献から抽出したところ、1,877件にのぼった。しかし過去の文献に掲載されている古文書は、それが属する古文書群の中から選定されたものである場合が多く、母体となる古文書群を含めれば、実際の所在数は相当の数にのぼると思われる。抽出した古文書の時代は近世のものがほとんどである。数の多い文書群としては第二地区の大勸進と大本願に所蔵されている善光寺関係の文書群などがある。これらの古文書は現在、長野市立博物館や長野市公文書館といった公的機関に寄贈・寄託されているものが多いが、個人所有のものもある。個人所有のものについては、現在所在の確認が取れていないものがほとんどであり、災害等で人知れず滅失してしまう危険も高いため、公的機関への寄贈・寄託を働きかけていく必要がある。

また、過去の文献からは見いだせなかったが、戸隠地区にある戸隠神社とその宿坊群には戸隠神社の歴史を物語る多くの古文書が残されている。これまではほとんど調査されてこなかった戸隠の文書群だが、現在、地元所有者と研究者による調査と整理が始められたところであり、今後戸隠の詳細な歴史が明らかになっていくと思われる。

## 【有形文化財（美術工芸品～考古資料）】

飯綱高原の上ヶ屋遺跡（芋井地区）からは、後期旧石器時代（ナイフ形石器文化期）の関東・中部地域（茂呂系）、東北・北陸地域（杉久保系）、近畿・瀬戸内地域（国府系）、それぞれの技術系譜をひく石器が出土した。縄文時代では、旭町遺跡（第一地区）出土のタカラガイ形土製品や宮崎遺跡（若穂地区）出土のサメ椎骨製耳飾など、内陸部と海浜部との交流を示す資料が出土している。弥生時代後期後半では、赤色塗彩された箱清水式土器（通称「赤い土器」）が長野盆地を中心に千曲川流域に広く分布して文化圏をなす。同時期の環濠集落である水内坐一元神社遺跡（柳原地区）からは、棘状装飾と赤色塗彩が施された木盾が出土している。また、浅川端遺跡（吉田地区）からは、三世紀代に日本列島に渡来したと考えられる馬形帯鉤が出土し、注目される。古墳時代では、長野盆地における古墳出現期に遡るとされる和田東山3号墳（若穂地区）の発掘調査により、未盗掘の竪穴式石室から内行花文鏡、大刀、鉄剣、鉄槍、鉄鏃、鉄斧などの副葬品が出土した。松ノ山窯跡（信更地区）からは県内最古級である6世紀初頭の須恵器窯が見つかり、須恵器や窯道具などが出土している。平安時代では古代斗女郷の中心と目される南宮遺跡（篠ノ井地区）から、瑞花双鳳八稜鏡や「宗清」銘の陶印、石帯（巡方、丸軛）、緑釉陶器など有力者の存在を示す遺物が多数出土した。中世では、有力国人・栗田氏の館跡とされる栗田城跡（芹田地区）から、善光寺式阿弥陀仏の小銅仏が出土している。

### 【有形文化財（美術工芸品～歴史資料）】

歴史資料としては、長野市立博物館の市内絵馬所在調査（平成19年～平成21年）により、市域に近世～戦前にかけての絵馬が約200点所在していることが分かっている。その中にはかくれだきふどう（芋井地区）の養蚕作業図絵馬や、各地にみられる裁縫絵馬など当時の生業・生活の様子が窺えるものや、つましなじんじや（第四地区）の御柱祭行列図絵馬やがわじんじや（安茂里地区）の山王神社祭礼図絵馬など当時の祭礼の様子を伝えるものなどがある。またほおりじんじや（松代地区）のまの神図絵馬は、近世後期に魔除け疫病除けの利益で信仰を得た山梨岡神社の御神体を描いたもので、まの神の信仰が市域にも伝わっていたことを示す貴重な文化財である。



まの神図絵馬（松代 祝神社）

### 【無形文化財（伝統工芸）】

市域の伝統工芸には、根曲がり竹を使った戸隠地区の竹細工、松代地区の光沢のある青緑色が特徴の松代焼のほか、手描き友禅や組子細工などがあり、いずれも県の伝統的工芸品に指定されている。



戸隠竹細工



松代焼



## 【民俗文化財（有形の民俗文化財）】

市域の有形の民俗文化財としては、善光寺門前町（第一地区から第五地区）の各町で所蔵している祭り屋台がある。これらの屋台は、上西之門町（第二地区）にある弥栄神社<sup>やさかじんじや</sup>で7月に行われる祇園祭のときに曳き出される。文政年間(1818－1831)につくられた「善光寺祭礼図巻」<sup>ぜんこうじさいれいずまき</sup>（真田宝物館蔵）には、各町の屋台が善光寺門前を巡行する様子が描かれているが、その頃の屋台は弘化<sup>こうか</sup>4(1847)年の善光寺地震により西町上組の屋台を残し、全て焼失あるいは損壊してしまった。現在の屋台は弘化の地震以降のものであり、その多くは幕末から明治、大正にかけて新造されている。新造された屋台は、ちょうどその頃各地の社寺彫刻を手掛けていた妻科村（第四地区）の宮大工山崎儀作<sup>やまざきぎさく</sup>の手になるものが多く、柱や天井に多数の彫刻が施されている。

| 地区   | 町名   | 屋台の種類 | 製作年      | 製作者     | 保存状況 |
|------|------|-------|----------|---------|------|
| 第一   | 桜枝町  | 本屋台   | 明治28年    | 山崎儀作    | 解体保存 |
|      | 西町上  | 本屋台   | 寛政5年     | —       | 組立展示 |
|      | 西之門町 | 踊り屋台  | 明治26年    | —       | 解体保存 |
|      |      | 底抜け   | —        | —       | 解体保存 |
| 第二   | 元善町  | 本屋台   | 江戸末～明治初期 | 山崎儀作    | 解体保存 |
|      |      | 踊り屋台  | 大正8年     | —       | 解体保存 |
|      |      | 底抜け   | —        | —       | 解体保存 |
|      | 岩石町  | 踊り屋台  | —        | —       | 解体保存 |
|      |      | 底抜け   | —        | —       | 解体保存 |
|      | 東町   | 本屋台   | 明治5年     | 山崎儀作    | 組立展示 |
|      | 大門町上 | 踊り屋台  | 大正3年頃    | —       | 解体保存 |
|      |      | 底抜け   | —        | —       | 解体保存 |
| 大門町南 | 本屋台  | 安政6年  | 山崎儀作     | 解体保存    |      |
| 第三   | 問御所町 | 本屋台   | 明治5年     | 山崎儀作    | 組立展示 |
|      | 権堂町  | 二階建て  | 大正5年     | 和田三郎次   | 解体保存 |
|      | 南千歳町 | 本屋台   | 昭和5年     | —       | 解体保存 |
|      | 上千歳町 | 踊り屋台  | 昭和初期     | —       | 解体保存 |
|      | 緑町   | 本屋台   | 明治初期     | 北村喜代松一門 | 組立展示 |
| 第四   | 西後町  | 本屋台   | 明治5年     | 山崎儀作    | 組立展示 |
|      | 新田町  | 踊り屋台  | 大正13年    | —       | 解体保存 |
|      |      | 本屋台   | 平成30年    | —       | 組立展示 |
| 第五   | 南石堂町 | 踊り屋台  | 昭和12年    | —       | 解体保存 |
|      | 北石堂町 | 本屋台   | 昭和11年    | —       | 解体保存 |

（「長野市歴史的風致維持向上計画」掲載の表を基に作成）

## 【民俗文化財（無形の民俗文化財）】

### 1. 風俗習慣

文献から市域社寺の祭礼や年中行事、講行事を拾い上げた結果、352 件にもものぼったが、現在も継続して行われているかは不明であり、今後把握作業が必要である。ここでは現在でも行われている風俗習慣に関わる文化財を紹介する。

（食文化）近世以降、市域の平地部では米と麦の二毛作が、山間部でも麦や蕎麦の栽培が行われていたため、「うどん」・「そば」・「おやき」といった粉食が発達した。作り方も麺を短めに平たくして、もろもろの野菜と一緒に煮込む「おぶっこ」や、あらかじめ野菜等を入れて煮た煮汁の中に、投げ籠に入れたそうめんを浸し、一杯分のわん碗の中に煮汁と合わせて入れて食す「おとうじ」などバラエティーに富む。「おやき」は、小麦粉を水で練った生地あんに餡となる具材を載せて包んで蒸す、あるいは焼いたもので、餡の具材にはこの地で獲れる丸茄子や野沢菜、切り干し大根が使われることが多い。かつては米食の間を埋める代用食として各家庭で日常的に作られていたが、現在では県を代表する郷土食として広く知られるようになった。

市域の西部中山間地を含むにしやまちほう西山地方と呼ばれる地域では、冠婚葬祭の際に「えご」と呼ばれる食べ物が出される。「えご」はエゴグサと呼ばれる海藻の煮凝りのことで、ようかん羊羹状に固めた後、刺身状にして出される。これを酢味噌などにつけて食す。「えご」の味は無味に近く、磯の風味が強い。隣県の新潟では日常食として食べられるのに対しハレの料理として食べられることや、煮凝りの際にあえて濾さずに磯の風味を強く出した方が好まれるなどといったところは、山国ならではの習慣といえる。

季節の風物詩として春先に食べられるのが根曲がり竹のタケノコである。根曲がり竹とは厳寒地に自生するチシマザサの若竹のことで、積雪が多く厳しい寒さの戸隠地区に多くみられる。市域では根曲がり竹のタケノコの時期になると、缶詰の鯖の水煮と一緒に味噌汁にして食す。そのため、この時期はスーパーなどで鯖の水煮缶が山高く積まれる光景がみられる。

（北信流）市域を中心に北信濃にしかみられない風習として北信流があげられる。北信流とは、酒宴の途中、年配者の発言によって酒宴の主催者と主賓が宴席の中心に進み、相対して杯を酌み交わすというもので、杯を酌み交わす間、さかな肴と称して謡が謡われるのが特徴である。北信流が行われると用事のある参加者は退席ができるとして、酒宴の中締めの意味もある。北信流で重要なのが肴と称する謡である。北



えご

信流は、明治以降にこの地域に広まったものだが、当時は肴を出すよう突然振られても良いように、謡の一つ二つは覚えているのが当たり前とされ、農家の男性は<sup>たしな</sup>嗜みとして冬の農閑期などを利用し謡曲の師匠について謡を習った。このような風習が市域を中心に広まったのは、近世松代藩の武士階級に広まっていた謡が近代に入って民衆に広まったことによる。その範囲は松代藩領をこえて北信濃一帯にわたったため、北信濃の別称である「北信」の名を冠して北信流と呼ばれる。



北信流

## 2. 民俗芸能

(獅子舞) 民俗芸能については、平成 30(2018)年に文化芸術課が全市を対象にアンケート形式で「地域のお祭り調査」を実施しており、特に獅子舞については各地の現状が把握されている。獅子舞は全市にわたって保存会等により継承されており、その数は 256 にものぼる。地区によっては小さな組単位で獅子舞を継承しているところもある。

(絵解き) このほか市域を特徴づける芸能に絵解きがある。絵解きは、仏画を用いて社寺の縁起や仏教説話などを説明する文芸の一つである。市域では、県宝の善光寺如来絵伝を所蔵しその絵解きを行う第二地区の淵之坊や、第一地区の<sup>おうじょうじ</sup>往生寺、第五地区の<sup>さいこうじ</sup>西光寺など善光寺近辺の寺院で絵解きが行われている。往生寺と西光寺では、両寺とも刈萱親子の伝承が伝わる



西光寺の絵解き

ところから、往生寺では「刈萱親子御絵伝」(2幅)、西光寺では「刈萱<sup>かるかや</sup>道心石童丸<sup>かうかやどうしんいしどうまる</sup>御親子御絵伝」(2幅)を用いて刈萱道心と石童丸親子の物語を口演している。西光寺では「六道地獄図」(6幅)の絵解きも行っている。このほか、現代ではほとんど見られなくなった絵解きを掘り起こし広めるため、地元の郷土史研究団体(長野郷土史研究会)によって、善光寺如来絵伝や<sup>ねはんず</sup>涅槃図などの絵解きも行われている。

### 【記念物(遺跡)】

市域には 1,000 を超える遺跡(周知の埋蔵文化財包蔵地)がある。旧石器時代の遺跡の多くは山間地に分布し、飯綱高原の上ヶ屋遺跡(芋井地区)では発掘調査が行われている。縄文時代では草創期から早期の遺跡が山間部に分布するのに対し、前期後半以降は沖積地や千曲川自然堤防上へ集落が展開する。主な遺跡として、早期の鍋久保遺跡(大岡地区)、前期後半の<sup>かみあきの</sup>上浅野遺跡(豊野地区)、<sup>まつのきだ</sup>松ノ木田遺跡(浅

川地区)、中期の檀田遺跡(若槻地区)、旭町遺跡(第一地区)、前期後半から後期の松原遺跡(松代地区)、中期後半から晩期の宮遺跡(中条地区)、宮崎遺跡(若穂地区)などがある。弥生時代は千曲川の後背湿地を利用した水稲がはじまり、自然堤防上に大規模な集落が展開する。後期になると環濠集落や周溝墓がつくられる。代表的な遺跡として、千曲川自然堤防上の塩崎遺跡群(篠ノ井地



宮遺跡

区)、篠ノ井遺跡群(篠ノ井地区)、松原遺跡(松代地区)、榎田遺跡(若穂地区)、水内坐一元神社遺跡(柳原地区)などがあり、扇状地上の遺跡としては箱清水遺跡(第二地区)、東町遺跡(第二地区)、吉田高校グラウンド遺跡(吉田地区)などがある。古墳時代になると、一定の規範の下に有力者の墓である古墳が築かれる。4世紀から5世紀中頃にかけては、地域を統べる首長墓として川柳將軍塚古墳(篠ノ井地区)、土口將軍塚古墳(松代地区)、和田東山3号墳(若穂地区)、三才前方後円墳(古里地区)といった90~50m規模の前方後円墳が盆地を見下ろす尾根上に築かれるが、5世紀後半になると前方後円墳は築造されなくなり、大室古墳群(松代地区)や吉古墳群(若槻地区)のように中型から小型の円墳を中心とした群集墳が造られる。特に、大室古墳群を中心とする千曲川右岸一帯には、積石塚や合掌形石室といった特殊な古墳が集中する。奈良・平安時代以降では、盆地内の微高地を選び、多くの集落が営まれる。中でも、オリンピックスタジアム建設にあたり調査された南宮遺跡(篠ノ井地区)では、千軒を超える住居址とともに陶印や八稜鏡など貴重な遺物が出土し、古代斗女郷の中心的集落と目される。中世には在地の国人層によって居館や山城が多く築かれる。山城は長野盆地一帯で200近く確認されており、旭山城、葛山城、大峰城、髻山城、若槻山城、尼巖城、清瀧城、寺尾城など、川中島の戦いに関わるものも多い。

## 【記念物(名勝地)】

名勝地として小田切地区の小田切八景は、明治44(1911)年に地元住民が滋賀県の近江八景にちなみ、地元の名勝地を八つ選定したもので、両郡橋、三竈神社、富士の塔などがあげられている。このほか長沼地区で選定した長沼十二景と呼ぶ12か所の名勝地などがある。

## 【記念物(動物・植物・地質鉱物)】

動物では若穂地区の穴水不動に生息するクロサンショウウオ、植物では市域の神社の御神木(多くがケヤキ)や、小田切地区にあるヒカゲツツジ、ヤマシャクヤク、スズランといった植物の群生地などがある。また、地質鉱物では、明治4(1871)年

に日本で最初の商業生産が行われた浅川地区の油井（石油井戸）や、江戸時代の紀行文に地獄の火として紹介された小田切地区の天然ガス、昭和まで白土の名で精米の搗き粉や磨き粉として利用されていた小田切・安茂里地区の裾花凝灰岩など、人々の暮らしと結びついたものが見られる。



浅川の石油井戸



安茂里の裾花凝灰岩